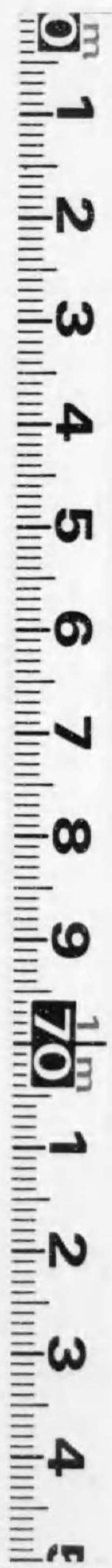


522

18

176



始



Удѣлъ въ Адамъ Младшій: А проповѣдь въ Адамъ Старшій.

sonnet is: "Please one, and please all,"  
the eye of one it is with me as the very time  
cross gathering. But what of that? if it please  
does make some operation in the blood, this

My lady, I could be sad: this

I sent for thee upon a sad occasion.

Ow! Sweetest thou?

Sweet lady, no, no. [Sings, *And what's the*

*Madrigal*]

ACT III SC 4

THE FIRST NIGHT.





# 夜

坪内逍遙譯

大正

13. 3. 29

購求

## TWELFTH NIGHT.

ACT III. SC. 4.

*Malvolio*

Sweet lady, ho, ho.

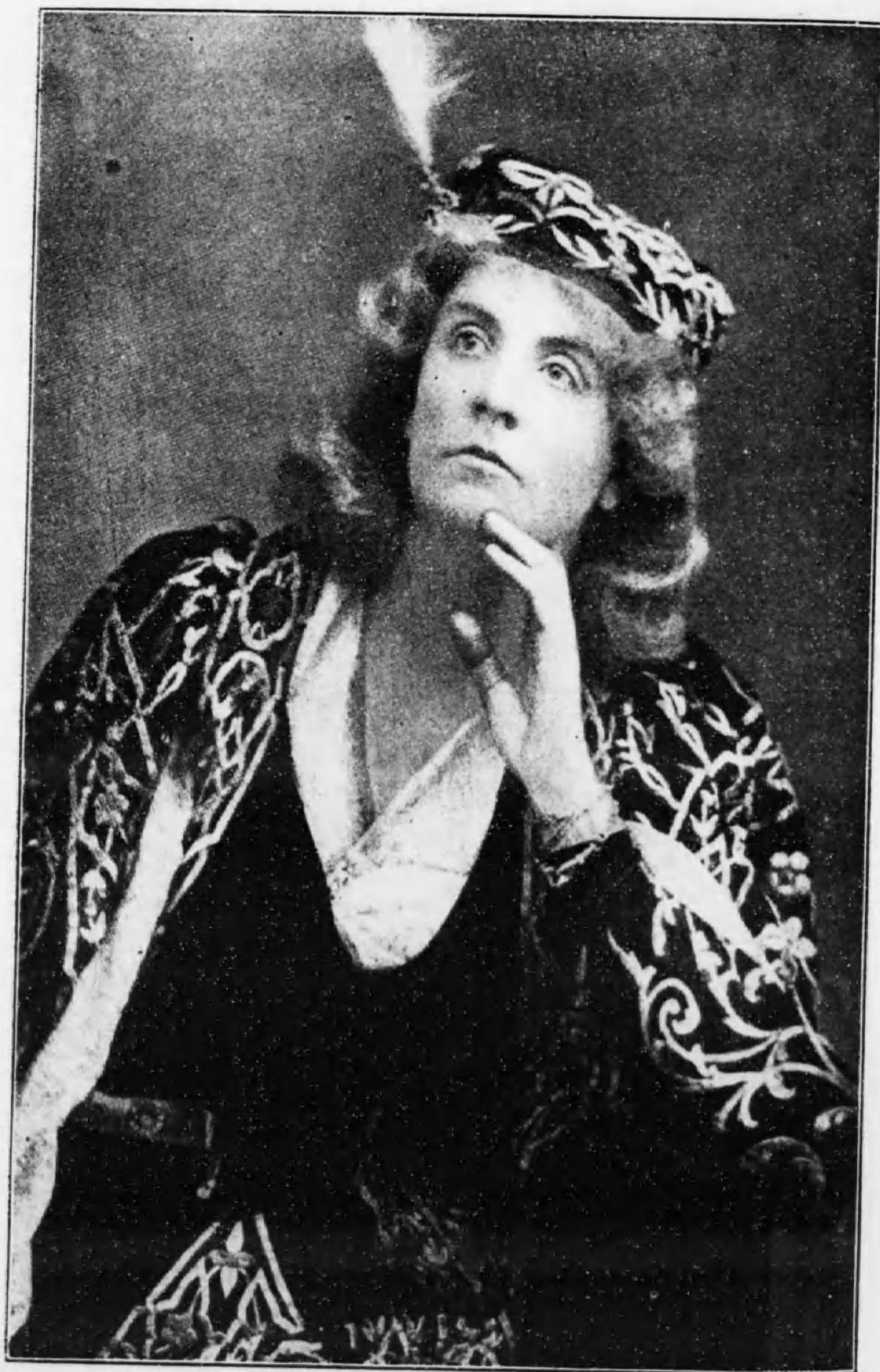
[Smiles fantastically.]

*Oli.* Smiliest thou?

I sent for thee upon a sad occasion.

*Mal.* Sad, lady? I could be sad: this does make some obstruction in the blood, this cross-gartering. But what of that? if it please the eye of one, it is with me as the very true sonnet is: "Please one, and please all."

Printed by John Henry Ramborg. Engraved by Thomas Eyler.



*Photo: Fassano, London.*

Viola in "Twelfth Night" (Miss Ada Rehan).  
*"I am all the daughters of my father's house,  
And all the brothers too."*

Act II, Sc. IV.

## 縮言

沙翁の喜劇中には、同じく喜劇と稱せられながら、明かに悲劇脈を含めりと見做され得るものあり。然るは、殊に中年以後の作に多し。例へば、『終りよきは皆よし』、『以尺報尺』の如きは是れなり。『ゼニス』の商人の如きも、之をシャイロックの境遇及び性格より見るときは、准悲劇的と評するも理なからず。彼の牧歌的にして極めて陽氣なる『お氣

に召すまゝの如きにすら、悒鬱癖の人物ジャケスによりて多少の悲劇的氣分の暗示せられたるを見る。然るに、是等の諸作に對すれば、彼の『眞夏の夜の夢』の如き、『から騒ぎ』の如き、もしくは『間違ひの喜劇』の如きは、明かに純粹なる喜劇とも評すべく、作者みづからも和樂し嬉笑しつゝ物したるらしき作なるが、此『十二夜』の如き將た其同じ部類に屬するものとすべし。學生の男女の互ひに取違へらるゝをかしみを本筋としたる脚色は、作者が習作期の翻案物『間違ひの喜劇』と異曲同巧の作意なれども、其内容の詩的價值に至りては、二者は同日にして談すべからず。

評家或は此作に發揮せられたる喜劇的技倆及び鑑識を激賞して、『じゃく馬馴らし』以上、『眞夏の夜の夢』以上、『エニスの商人』以上、『ウィンゾアの陽氣な内儀ら』以上、否、『から騒ぎ』よりも、『お氣に召すまゝ』よりも以上なりとなす。勿論、かくの如きは寧ろ溢美の言とすべし、然れども此作が喜劇作家としての沙翁の圓熟期を代表する傑作中の隨一たることは争ふべからず。

『十二夜』の刊行は例の一六二三年版の二折本をはじめとす。其初演及び書きおろしの年月は、十九世紀のはじめ

までは不明なりしが、一八二八年に、大英博物館所藏の謄寫本中にジョン・マンニンガムの日記の發見せらるゝに及びて其初演の一六〇一年二月なりしことだけは明かとなれり。随つて其書き下しも一六〇〇年前後なるべく推定せらる。尙、此作の材源も、右の日記によりて、在來よりも分明になれり。すなはち主として伊太利の喜劇『Inganni』、『だまされ』に依據せしものゝ如し。もつとも、當時の伊太利喜劇中には、筋も外題も相類似したる作三種ありき。前記『インガンナチ』は其最初の物にして一五三七年に刊行せられ、作者は明かならず。第二は『Inganni』、『取りちが

へ』と外題したるものにて、一五九二年の刊行、作者は *Curzio Gonzaga* といふ者なりきといふ。こはおそらく『インガンナチ』を翻案せしものなるべし。其次ぎは一六〇四年の刊行にて、同じく『インガンニ』と題するものゝ由。但し此最後の作は『十二夜』書きおろし以後の出版なれば、沙翁が參照して多少共負ふ所のありたらん作は、前の二種に過ぎざるべしといふ。然れども筋の上にて比較的にも多く本篇に似たる所ありと見做さるゝ第一作の『インガンナチ』、『だまされ』と雖も、ファーンズの集註本に其主要なる齣々の譯出せられたるに依りて見るに、其相似たるは、只纔か

に、ある妙齡の女子が、男装してある若き男子に仕へ、其男子の爲に、彼れが戀へる或美女の許へ屢々使ひし、却りて其美女に戀ひ慕はるゝに至れるが、其男装の女子はまた深く其主なる男子を戀ひ慕ふといふ三角關係の紛糾が、最後に其變成男子の學生の兄の來會するに及びて解決せらるるといふ大網上のみ。各人物の性格、其關係、其境遇等は著しく異なれり。且つ『十二夜』には、沙翁の作の常例通りに、學子事件以外に副への筋ありて、喜劇的情味は寧ろ之に依りて完成せられたりとも見ゆるなるが、此第二の脚色の如きは總て沙翁の創意なるが如し。學子に關

する筋と雖も、此作に取入れられたる程度の大綱は『インガンナチ』以前にも其例乏しからず。劇にも又小説にも少からず。現に沙翁の初期の作『間ちがひの喜劇』は、古羅馬の作家プロータスが *Menechini* を翻案せしものにて、同じく學子の取違へを主題とせり。斯く解し來れば、本篇は、沙翁の作中にて、むしろ他に負ふ所の頗る尠きものに屬すべし。されど、尙念の爲に、『インガンナチ』の各齣に就いて、本篇と相似たりと思はるゝ要概だけを、左に抄録しておくべし。

羅馬に住める老商人に *Virginio* ヴージニオといふがありて、一



男一女をもてり。兄は *Fabrizio* フアブリヂオといひ、妹を *Leila* リヤといへり。兄のフアブリヂオは一五二七年、羅馬が西班牙人に侵略せられし際に行方知れずとなりぬ。其頃十三歳なりし妹リ、ヤは其父に伴はれてモデナ市に移り、こゝとしては既に十七歳となれり。時に同市の一老富豪に *Gherardo* グラードーといふ者あり、リ、ヤを娶らんと欲す、父ブージニオは之を甘諾せり。然れどもリ、ヤには既に相思の人あり、其名を *Flaminio* といふ、これもモデナ市の資産家なり。此フラミニオ初めは屢、ブージニオの家に訪れてリ、ヤと相語り、互ひに憎からず思ひをりしが、故ありてリ、ヤが

約一年餘りさる尼寺に預けられをりし間に、心變りして、グラードーの女の *Isabella* イサベラといふに其戀を移し、のみか、道路に相逢ふも、最早リ、ヤを認識せざるほどにも忘れ果てぬ。さるほどにリ、ヤはフラミニオを思慕するの情を絶つ能はず、竟に男装して尼院を脱け出で、名をも *Fabio* ファビオと改めて、モデナ市に戻り來り、巧みに變装してフラミニオに仕へて侍童となれり。かくて其資格にてイサベラへの艶書及び口上の使ひをなすうち、彼れを女子とは心附かざるイサベラの爲に戀ひ慕はるといふが序幕の筋なり。但しリ、ヤ父子の履歴及び其他一切の過去の事蹟

は男装してモデナ市に歸り來れるリ、ヤと之に邂逅せる其乳母クレメンシヤとの對話によりて解るやうに仕組まれあり。

第二幕となりてリ、ヤのフアビオが其主人フラミニオにイサベラの靡く色なき由を報告する條あり。且つ曰く「君は曾て此國の一女子にして深くも君を慕へる者ありしを忘れたまへるか？ 君は何故に彼女を棄てたまひしぞ？」と。然れどもフラミニオはフアビヤをリ、ヤなりとは夢にだに心附かず、却つてイサベラの自分を嫌ふは、嘗てリ、ヤと相思の仲なりしを聞き知りたるが故ならんと解し、「汝往

きてイサベラに告げよ、われ今は彼のリ、ヤを憎む」といふ。リ、ヤ之を聞き、覚えす悲しげに溜息す。フラミニオ驚きて「心地あしきや？…われによた靠れよ。…いづこか痛む？」など、いたわることあり。此あたり微かに沙翁の作意に觸る。

第三幕に入りて、リ、ヤの兄フアブリヂオ其師の貪婪なる似而非學究と共にモデナ市に歸り來る。その師が案内して市内の各所を巡覽せしむることあり。とかくする間に、ブージニオは其女リ、ヤが一侍童に變装してフラミニオの邸にあることを聞知し、且つ此事を老富豪ゲラードと相語り

つゝある折しも、ふとフアブリヂオに邂逅す。而して其容貌の酷似せるに誤られて、彼れを男装せるリ、ヤなりと思ひ、直ちに引き立て歸らんとす。かくて双方のいふ所相齟齬する結果、老人らは以爲へらく、リ、ヤ狂氣せりと。すなはち強ひてフアブリヂオをゲラードーの家へ引き立て行きて、彼れが女イサベラの部屋の内に幽閉す。

第四幕にては、ビエローといふ者、グージニオに其子フアブリヂオの當市に戻り來りて、今正に阿呆館アールといふ旅舎に宿りをれりと告ぐ。然れども急ぎ件の旅舎に到り見れば、其人はそこにあらず。折からゲラードーはふと街上にて、實の

リ、ヤを見附けたりしが、彼女は例の如く男装しゐたれば、又も見誤りて、さては先刻幽閉しおきたるが脱け出でたるならんとのみ思ひ、急ぎ其家に歸る。然るに、其不在中に、イサベラとフアブリヂオとの間に、逸早くも婚約の成れるを知りて驚く。

第五幕にては、劇中の主要なる人物悉くゲラードーの家に相會す。こゝに於て、誤解も葛藤も悉く釋く。イサベラはフアブリヂオをリ、ヤの代りとして甘受し、フラミニオ將た其舊情人リ、ヤの切なる真情を彼れが乳母より聞き知りて其愛を復す。此大團圓に際して、只ひとり何の得る所もな

くて終れるは老富豪ゲラードーのみ。

以上の梗概を本篇の内容と比照すれば、おのづから歴然たるが如く、『インガンナチ』には、『十二夜』の主眼人物たるマルドリオ、若しくは狂言廻しとも見るべき常醉漢士爵トビー、其友の低能士爵エーグチーク、もしくは栗鼠の如き小間使ひマリヤ、道化方フェスト等に相當する人物は一もあらず。僅に其序劇中の一人物の名に *Malvolio* といふがあるによりて、或は *Malvolio* の名は之に原もとけるかと想像し得るに過ぎず。

何故に此作を『十二夜』と外題したるかに關しては二様の解

あり。基督降誕祭の最終日即ち第十二夜に演ぜらるべきものとして書かれたるが爲ならんかといへるが古き一説なれども、こは今はむしろ捨てられたる説なり。按ふに、十二夜は伊太利などにては、盛んなる餘興季節として知らるゝなれば、作者は、彼の『真夏の夜の夢』もしくは『冬の夜話』の場合に於けるにひとしく、單に此名を借り來つて、「愉快なる喜劇」を標榜せるに過ぎざるべき歟。是れ他の一説なり。此作、又の表題を *What You Will* 即ち「好きなもの」又は「御意のまま」といへり。蓋し作者の意は「外題の如きは如何やうにても可なり、観客諸君に於てよろ

しく命名せられたし。われらは只一に諸君の好みに適ふやうにと苦心するのみ。劇詩學とやらん、作劇法とやらんは吾等の與り知る所にあらず」と洒々然として、暗にベン・ジョンソン一派の學究的劇詩論を揶揄せんとしたる點に存するものゝ如し。すなはち此外題は彼の『As You Like It』(『お氣に召すま』)と同趣旨に成れるものに外ならざるべしといふ。

此作の初演が一六〇二年の二月二日なりしことは前記マンニンガムの日記によりて明かになりたるが、次ぎに古

記録に見えたる上演は一六四〇年にして、其頃は「から騒ぎ」及び「ヘンリー四世」上下二部など、拮抗して好評を博しつつありしものゝ如し。それより十八世紀間は勿論、十九世紀の末までも演じつゞけられ、今尙屢復演せらるるを見て、此作の人気多きを證すべし。

實演に際しては、主座俳優の役どころは、いふまでもなく、マルザリオたり。此役は、見方によりては此喜劇の主人公ともいひ得べき程に主要なる位置を占むる人物なれば、其演じ方次第にて此劇の死活は定まるなり。若し餘りに眞面目に、此人物の性格に同情して、心理的、寫生的に演

出せんには、危く此喜劇をして一種の悲劇脈を帯びしむるものとなす虞れあるべし。さりとして其反對に専らフランス式にのみ取扱はんは、此劇をして沙翁の作たるにふさはしからざるものとなす誹りあらん。この役の重きをなす所以は主として此二つの中間を縫ふの難きに在りといふ。古俳優中此役に扮して名を傳へたる者、十八世紀の前半にはマックリンあり、イェーツあり、其後半にはキングあり、ウイルソンあり、ベススリーあり、ヘンダーソンあり、ジョン・ケンブル等あり。十九世紀に入りては、其初頭に兄のマシュースあり、リストン等あり、後半に降りてはフェルブスあり、メドウス

等あり。故ビヤボム・ツリーの如きも此役に扮して相當の評判ありき。

女性役はヴィオラを第一とす。此役に扮して名ありしは、遠く十八世紀に在りては、ブリチャード夫人、近く十九世の末に降りては、アデレイド・ネイルソン嬢などなり。

まことの兄妹をして劇中の學子に扮せしめて觀者の好奇心を牽かんとせし試みは一七九〇年に始めて行はれたりしが、其時のヴィオラはジョオダン夫人にして、セバスチャンの役は其實兄のブランドといふ俳優が扮したりき。但し二人の容貌が酷似せりしや否やは明かならず。尙、一八

一五年四月に、蘇格蘭 エヂンバラ市の王立座にても、同様の試みをなした、ことあり。其際は實の兄妹の容姿が著しく似たりしたため、大當りなりきといふ。グイオラはエッチ・シッドンス夫人にして、セバスチャン役は其兄ダブルユー・マーレーなりき。

大正十年四月一日

於 熱 海

譯 者

### 登場人名

オ、シノー、イリ、ヤ國の公爵。

セバスチャン、處女グイオラの學生の同胞。

アントニオ、某市の水軍の將官、セバスチャンの友。

グレンスタイン

オ、シノー公爵の侍臣。

キューリオ

士爵トビー・ベルチ、オリギヤ姫の叔父。

士爵アンドリュー・エーグチーク、低能の武士。

登場人名

マルブリオ、 オリギヤ姫の執事。

フビヤン

道化方(名フェスト)

オリギヤの家人。

一船長、 ヴイオラを救助せし男。

オリギヤ姫、 富める伯爵家の女嗣。

ヴィオラ、 男装してオ、シノー家に仕へて侍童となれる  
處女。

マリヤ、 オリギヤの腰元。

貴族、僧侶、水夫、吏員、樂人、侍士ら。

場所

イリ、ヤの一市及び其附近の海岸





# 十二夜

又の名「お好きなもの」

## 第一幕

### 第一場 公爵の館

イリ、ヤ公爵こうしやくオ、シノーと其侍士そのじしのキエーリオと貴族きぞく役やくの者ものらと出でる。楽人がくじんら後うしろに控ひかへてゐる。

公 音楽が戀の營養になるものなら、奏しつゞけてくれ。多過ぎる程わしに食はしてくれ、戀が食傷して、病氣になつて死んでしまふほどに。今の曲をもう一度！ 滅入つて行くやうな調べだつた。おゝ、まるで堇の咲いてゐる堤を、其花の香を奪つたり與つたりして、吹通つてゐる懐しい南風のやうに、わしの耳には聞えた。……もう澤山。よしてくれ。もう先刻ほどに懐かしくない。……あゝ、戀よ！ 汝はまア何といふ敏活な、變化し易い精靈だ！ 何でも海のやうに受容れる癖に、何一つ永くは同じ値打を有たせてはおかないで、またゝく間に見下げてしまふ。實に戀心は移り氣なものだ。とりわけて氣まぐれなものは戀心だ。

キユー お獵にでもお出掛け遊ばしませんか？

公 何を獵りに？

キユー 牝鹿をです。

公 ハートを？ 心臟なら、此通り、無類に立派なのを獵立てゝゐるではないか？ あゝ、はじめてあのオリギヤ姫を見た時……天地が俄に淨化されたやうに感じた！……あの途端におれは牝鹿に變へられてしまつた。あれからといふものは、情慾が、猛烈な、残酷な獵犬のやうに、おれの心を獵立てをる。……

公爵の他の侍士ヴレンスタイン出る。皆入る。

ヴレン どうだ？ 姫は何といつたい？

申し上げます、お目にかゝることは出来ませんでした、お女中から承はりました御返事によりますと、七夏の暑さが過てしまふまでは、大空にさへお顔をお見せなさるまいといふ御決心で、御外出の折は、尼御さんのやうに面掩ひをなされ、又お居間のまはりへは、毎日一度づゝ、あのお目から出る鹽辛い水をお撒きなさらうといふのです。是れは皆、お亡くなりにな

りましたお兄様を、今尙在すが如くに、御追慕遊ばしたい爲ださうにござ  
います。

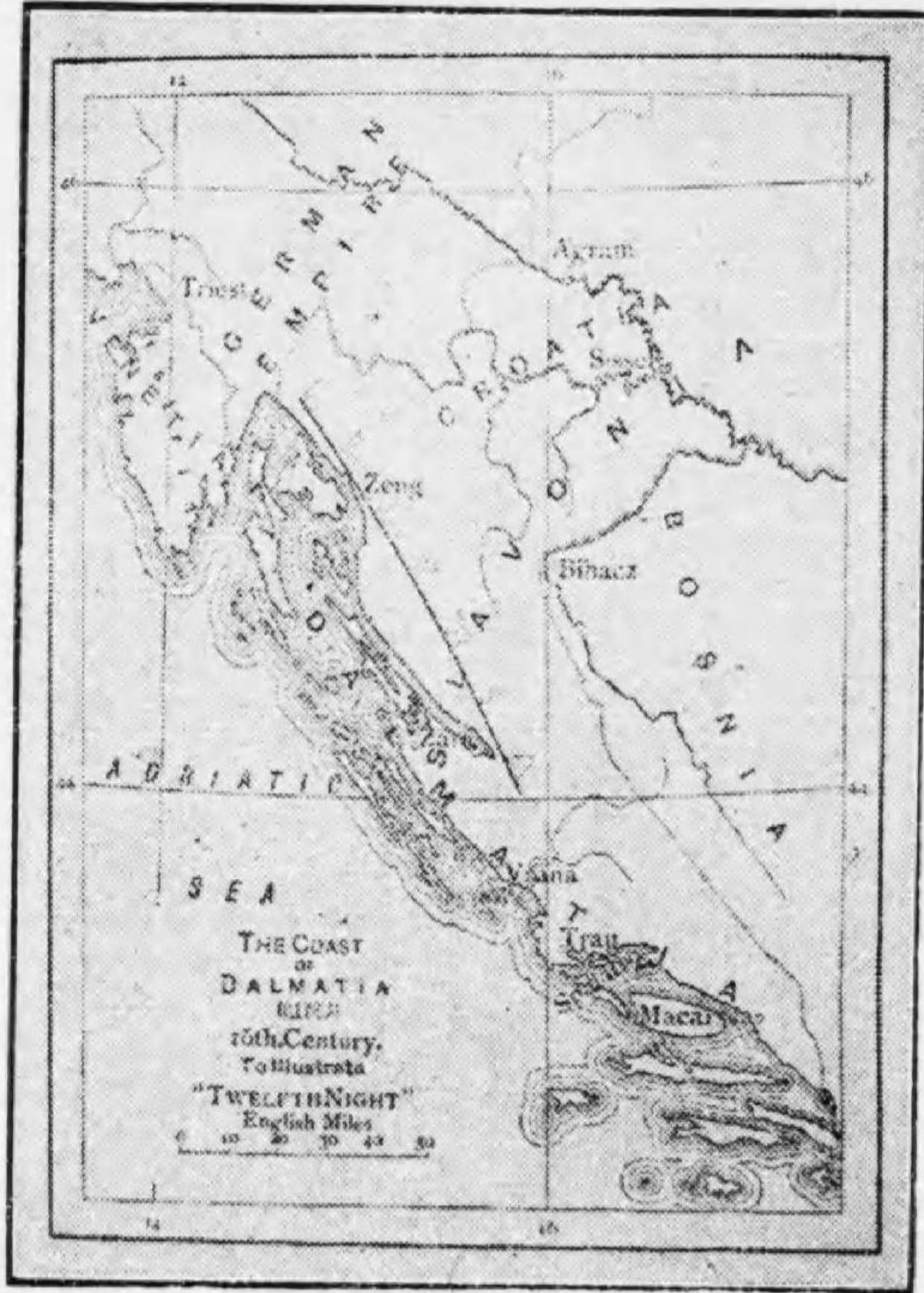
公

あゝ、兄弟に對してさへ、それほど情の深い、やさしい心を有つてゐる姫だ。  
若し彼女の心の内の他のすべての情の群が、例の黄金の箭に中つて死んで  
しまつて、肝の臓も、脳髓も、心の臓も、それらの無上の王座一切が、唯一の  
戀といふ君主の有に歸してしまつたなら……可憐な、圓滿な女心を見せて  
くれることゝなつたなら……どんなだらう！……花園の四阿へ案内して  
くれ。咲亂れた花の蔭こそ戀ひわたる心の此上もない宿だ。  
皆入る。

第二場 海岸

處女 ヲイオラと船長と一水夫と出る。

ウイオ こゝは何といふところでございますの？  
船長 イリ、ヤ國です。



ウイオ

わたしイリ、ヤ國  
かへ来て、如何しま  
せう？ 兄は他界へ  
往つてゐますのに。  
……でも、どんなこと  
で運よく助かつて  
ゐるかも知れない。  
ねえ、どうでせう？  
とにかく貴女は運  
がよかつた。

船長

ワイオ あゝ、お氣の毒な兄さん！ 運よく助かつておいでだとよいけれど。

船長 さやう、そこは運次第ですからね。といふのは、あの船が破れた時、あなたや他の助かつた少数の人達が漂ふボートにしがみ附いてゐなすつた時に、お兄さんは、あの危険な最中にも用意頗る周到で、勇氣と希望とに教へられて、浪間に浮いてゐた大帆柱に自分の體を縛り附けて、海豚に乗つたエリオンのやうに、荒浪と闘つてゐなざるのを見ましたよ。わたしが見てゐた間は、たしかに生きてゐなすつた。

ワイオ さうおつしやつて下さるお禮に此お金を呈げます。わたしが斯うして助かつて見ると、今のお言葉は、或は助かつたかも知れないと思ふ心の保證になります。……此國をあなた御存じ？

船長 よく知つてますよ。わたしは此處から三時間で往かれる處で生れて育つたのです。

ワイオ どういふ方が御領主です？

船長 立派な名高い公爵さんです。

ワイオ お名は何といふのです？

船長 オ、シノーさんといひます。

ワイオ オ、シノーさん！ あゝ父に聞いたことがあります。其時分、其方お獨身

でいらしたのですの。

船長 今でもです、とにかく、つい此間まではです。といふのは、わたしは一月前にこゝを出立したのですからね。其際……とかく大身のなさることは下の者共がいろく噂をするものですから……昨今公爵さんは美しいオリギヤ姫さんといふ方へ結婚のお申込みをなすつたとか何とか噂をしてゐましたつけ。

ワイオ 其お方はどういふ方ですの？

船長

つい一年ばかり前に御子息に後見を託しておいてお亡くなりになつた或伯爵さんのお姫さんで、才徳兼備の方です。ところが、そのお兄さんもまたお亡くなりになつたので、お姫さんは、御愛着の餘り、誓言をして、男子との交際はおろか、面を合せることさへもなさらないといふ噂でした。

ワイオ

お、出来るものなら、わたし其方に御奉公をして、十分準備が出来て、身の上を世間へ発表してもよいやうになるまで引込んでゐたい！

船長

そいつはむつかしいでせう。どういふ頼みをも願ひをもお許しなさらないんですからね、公爵さんのお申し込みをさへも。

ワイオ

船長さん、あなたはお見受けしたところ、善良さうなお人です、もつとも世間には外側がうつくしくて内容の汚い物も折々あるんですけれど、あなたはお見掛けした通りの綺麗な心を持つておいでだらうと思ひますの。ねえ、十分お報いはしますから、わたしの身分を知らさないで、姿を變へてゐ

て、さうして目的が遂げられるやうな工夫をして下さいな。わたし其公爵さんに御奉公がしたいわ。あなたわたしを閣人だといつて紹介して下さいな。十分お報いしますから。わたしは歌もうたへるし、いろんな音楽で以てお相手になることも出来るし、きつとお役に立つと思ひますから。それ以上は臨機應變としときます、只わたしの此趣向を人に言はないので、して下さい。

船長

おや、あなたは公爵さんの閣人におなんなさい、わたしはあなたの默侍者を勤めませう。若し舌を叩いたら、此目をつぶして下さい。

ワイオ

ありがたう。案内して下さい。  
入る。

第三場 オリギヤ姫の邸

オリギヤ姫の叔父で此邸に寄食してゐる懶惰な放逸な大酒家の士爵トビー・ベルチといふ武士と腰元のマリヤと出る。マリヤは極小柄な栗鼠のやうな機敏な女である。トビーは大抵の場合生酔でゐる。

トビー 姪め、どうしやがつたといふんだ、そんなに兄貴の死んだのを思ひ込むてのは？ 樽ぎの蟲は命取りだのに。

マリヤ ねえ、トビーさま、ほんとに以來は、毎晩もつと早くお歸りにならなくちやいけませんよ。お姪御様のお姫様が、大變御不機嫌でございますから。

トビー ヘッ！ 不機嫌けつこう、「無期限有效」と來てけつかる。

マリヤ ですけどね、せめてもう少し程よく遊ばせよ。

トビー 程よく？ 程がよからうちやアないか？ 此着物だつてよ、酒を飲むにやアい、程加減の代物だ。此長靴だつてよ。さうでないといふ奴がありや、うぬが靴紐で首イ縊つてくたばりやアがれ。

マリヤ そんな風になぶく、飲んでいらつしやると、今に體を損してしまひますツさ。きのふもお姫さまが其お話でしたのよ。それから先夜あなたがお伴れになつたあの馬鹿アな、そら、あの、お姫さまのお婿がねにといつてお伴れになつたお侍ひさんの事をもね。

トビー だれのこつた？ 士爵アンドリユー・エーグチークのことか？

マリヤ さうです。

トビー あの男はイリ、ヤちうのだれにだつて負きやせんが。

マリヤ それが何の役に立ちます？

トビー 奴の収入は一年に三千兩だぞ。

マリヤ ですけどね、あの方ちやア其三千兩が一年分にしか足りやしません、大馬鹿さんの癖にお金づかひが荒いと来てゐるんですから。

トビー 馬鹿ッ！ 何をいつてやがるんだ！ あの男は大提琴を弾くことが上手な上に、暗で三ヶ國、四ヶ國の語を間違ひツこなしにしゃべら。それから何にでも圖ぬけて器用だ。

マリヤ 成程、ほんとにあの方は圖抜けてますよ。抜けてる癖に、喧嘩好きですからね。幸ひと持前の臆病が、其喧嘩ッ早いのを調和するからいゝやうなものゝ、さうでなかつたら、とうに墓穴へ入つてる人だらうツて、伶俐なお人達はおつしやつてますの。

トビー とんだコツた！ あの男をそんな風にいふ奴ア悪黨だ、譏誣者だ。だれがそんなことをいつた？

マリヤ 其人達はね、まだ其上に、かういひますの、あの方はあなたの飲友達で、毎晩のやうにへつてるんだツて。

トビー 姪の健康を祝して飲むのよ。おれは、苟も咽喉に酒が通ふ限り、イリ、ヤに酒が有る限り、姪の爲に飲むんだ。それをしねえやうな奴ア卑怯もんだ、三文奴だ、頭が村の大獨樂のやうにぐるぐる廻るまで飲まねえ奴ア。：え、何だとッ！ *Castilano vulgo!* (西班牙づらめ！) だつて、あそこへ士爵ア

ンドリュウ・エーグフェースが来たゞらうぢやねえか？  
低能の勳爵士アンドリュウ・エーグチーク出る。

アンド 士爵トビー・ベルチ！ どうぢやね、士爵トビー・ベルチ！

トビー 親愛なる士爵アンドリュウ！

アンド (マリヤに) や、御機嫌よう、口のわるい別品さん！

マリヤ あんたにもね。

トビー おい、正式にやるべし、士爵アンドリュウ。挨拶々々。

アンド え、何ぢやね？

トビー 姪の腰元だよ。

アンド あゝ、アッコストさん、以後どうかお心安く。

マリヤ わたしはメーリーと申しますのよ。

アンド では、メーリー・アッコストさん、…

トビー おい、君、思ひ違へてるよ。アッコストてのは應對をすることなんだ、乗込むことなんだ。くどくんだよ、斐ふんだよ、婦人を。

アンド いや、我輩此場でさういふことはしたくないねえ。アッコストちふのはさういふことかね？

マリヤ さやうなら、失禮いたします。

マリヤ 行きかける。

トビー おい、士爵アンドリュウ、そのまゝ逃しツちまふやうぢや武士の面よごしだ、二度と其劔が抜かれなからうぜ。

アンド (マリヤに) 御婦人、このまゝ逃げていかつしやられては、武士の面よごしになるちふから、二度と此劔が抜かれんことになるぢやらう。御婦人、あなたは相手を阿呆扱ひにするかね？

マリヤ あなた、わたしまだあなたのお相手になるほどにはお親しくないのよ。

アンド 成程。ぢや、先づお知交になるかね。さ。(と手を出す)。

マリヤ (其手を握つて) ねえ、「思ふのは勝手」といふでせう。ですからねえ、此手を臺所の酒壇へ持つてらして、ね、お酒でもお飲ませなさいね。

アンド といはつしやるのは？ 其喩のわけは？

マリヤ あんまり干乾びてますからさ。

アンド そりやさうぢやらう。我輩は常住手を濡らしとるやうなそんな阿呆では



ないからなう。が、それはどういふ洒落かね？

マリヤ 干乾びた洒落なんですよ。

アンド では、ひからびた洒落が君のお手の物かね？

マリヤ はい、(とアンドリュエーの手を指先で玩弄物にしながら)お手の物ですとも。指の先で自由になりますの。(と手を離して)けども、あなたの手を放してしまふと、もう種切れなの。

マリヤは大笑ひをしてついと入る。アンドリュエー呆れて、しよげて、見送る。

トビー おい、大將、カナリー酒でも引ツかけたがよからうぜ。やられたね！

アンド こんなにやられたことはないよ、カナリーには折々やられたけれどね。我輩も、時々は、或は、人並の智慧しかないのかなアとも思ふかね。我輩あんまり牛肉を食ひ過ぎるから、それで智慧が鈍つたかも知れん。

トビー 無論だ。

アンド 折角思ひ立つたのぢやけれど、もう我輩は思ひ切ることにする。士爵トビー、

トビー 明日はもう我輩國へ歸ることにする。

トビー おい、大將！ Pouiquoi? (何故?)。

アンド Pouiquoi? てのは何ちふとかね? 爲ることかね? 爲んことかね? あゝ、擊劔や舞踏や熊いちめに費つた時間を、語學に使へばよかつた。あゝ、文學を習つとけばよかつた！

トビー さうしたなら、君の頭髪はすばらしいもんだつたらうぜ。(と語學 tongue を縮毛鉗 tong の事にして云ふ)。

アンド (洒落を解しないで)え、さうすれば我輩の頭髪が見よくなつたらうかね?

トビー 無論さ。君の毛は、生來のまゝぢや縮れちやアゐないだらう?

アンド でも、別段見ともなくはないぢやらう。

トビー どうして、立派なもんだ！まるで紡績竿に麻絲を掛けたやうだ。だから若し家婦が君を股倉へ、おツ挟んで、ひよいくと紡いだらよく似合ふだらう。

アンド トビーさん、實際、我輩は明日は歸るよ。君の姪さんはどうしても面會してくれんぢやもの。假令面會してくれるとしても、我輩の願望は、十中の一も遂げられさうにないから。すぐ近所の公爵とやらがやい〜言つとるちふからね。

トビー 公爵のいふことなんか聴きやしないよ。上の者とは結婚しないんだ、身分でも、齡でも、智慧でも、上の者とは。さう斷言してゐたよ。馬鹿な、まだまだ大丈夫だよ。

アンド ぢやア、もう一月逗留しよう。…我輩は妙な料簡の男でねえ、どうかするとねえ、夢中になつて假面舞踏を踊つたり、飲めや歌へやをやらかしたりするぢや。

トビー 君にさういふ隠し藝があるのかい？

アンド さういふことぢやア、此イリ、ヤちうの誰れにでも負きやせんが、我輩の目上の連中でない以上、けれども老人連にや叶はん。

トビー 活潑踊ぢや、どういふのが得意だい？

アンド 跳躍踊が一等好きだ。

トビー 肉汁が？ ぢや、おれが羊肉を獻じようよ。

アンド (洒落は解らすに) それから、逆跳躍なんかもね、イリ、ヤちうのだアれにも負けん積りぢや。

トビー そんな藝があるのに、なぜ隠しとくんのだ？ なぜ幕を張ツとくんのだ？ モール(當時の女賊)の似顔のやうに。埃がたかるかい？ 教會へだつて、踊の足取で往つたり來たりしたら、よさゝうなもんだ。平素の歩きツ振だつて、おれなら道化踊式であるべきだ。小便をするにだつて、五拍子踊で



やらかさアな。どういふ積り  
だい？ 才徳を隠すことが流  
行るのかい？ おれはお前の  
脚附の立派なのを見て、とうに、  
大方、踊り星の下で生れたんだ  
らうと、思つてゐた。

アンド  
(得意になつて) うん、脚は随分丈夫  
ぢや、こんな金色の靴下を穿い  
とるけれどね。飲んで一騒ぎ  
やるかね？

トビー  
やらなくツてどうするもん  
だい？ 金星(咽喉に感化を及ぼす星)

の下で生れた吾々だ。

アンド 金星？ 金星なら、脇腹と心臓を司るんぢやないかね？

トビー うんにや、脚と股だよ。さ、さ、跳躍踊を跳ねて見せな。……

アンドリュウ 踊りはじめる。

はゝゝ！ もつと高く。 はゝゝゝゝゝ！ うまいぞ！

二人とも入る、アンドリュウは踊りながら。

### 第四場 公爵の館

公爵の侍士 公爵の侍士 公爵の侍士  
先きに、男装したるヴァイオラ出る。 シー  
ザリオと假名してゐる。

グレン シーザリオ、殿さまの御寵愛が若し今のまゝで續くやうだと、君は出世し

ますぞ。お目にかゝつてから、まだ三日目にしかならんのに、もう三年も御奉公してゐなすつた人のやうだ。

ワイオ 御寵愛が若し續けばとおつしやるのは、わたしが御奉公を怠るか、殿さまのお氣が變るか、どちらかを氣づかつてのお言葉でせうが、殿さまは、そんなに機嫌買ひなんでしょうか？

ウレン いゝや、決して。

ワイオ ありがたう。…あそこへお出でになつた。

公爵と侍士 キュリオオと他の侍者役ら出る。

公 (キュリオオらに) 公前ををりまする。へい、こゝに。

ワイオ (前へ進んで) お前ををりまする。へい、こゝに。

公 (キュリオオらに) お前たちは暫く離れてゐろ。…

侍者一同 一隅へ退る。

シーザリオ、わしは汝には何もかも打明けた、靈魂の祕書までも繕いて見せた。だから、思ひ切つて、姫のところへ出掛けていつて、否應いはせず、門口に突立つて、お目にかゝるまでは、かうして爰に足を生え附かせてゐますと言ひな。

ワイオ でも、御前さま、そのお姫さまが、噂の通り、深いお歎きにお沈みになつていらつしやいますのですと、逆もお會ひ下さるまいと思ひます。

公 何一つ得る所もなくつて歸るよりは、やかましくわめき立てる、禮儀なにかにかまはず。

ワイオ で、若しお目にかゝれましたら、どういたしますか？

公 おゝ、其時には、如何にわしの戀が熱烈であるかを話せ、わしのせつない真心の一伍一什を話して、姫の心を突貫しろ。戀に悩むわしの代理を勤めるには、おのしは適任だ。むつかしい顔附の使ひの者よりは、若々とした汝

のはうが姫の氣に入りさうだから。

ワイオ わたくしはさうは思ひません。

公

いゝや、きつとさうだ。だつて、おのしを男だと思ふやうな者は、それはまだ汝の少年振を見誤つてゐる手合だらうもの。 静娥の紅玉のやうな唇だつて汝の唇のうつくしさには叶はない。 汝の小さい喉笛はまるで少女のそれだ、甲高な聲が出る。 何もかもが女の持前に似てゐる。 だから汝は宿命的に此任に適してゐるんだ。…だれか四五人、あれに従いて行け。 何なら悉皆往つてもいい。 おれは傍に人がゐないのが一等好いのだから。(ワイオラに) うまくやつて来てくれ、さうすりや、おれの財産を汝の有といはせて、おれと同等の生計をさせてやる。

ワイオ

力に及びますだけ骨折りまして、そのお姫さまを説いて見ませう。(傍白) けれども自分の爲には邪魔な骨折! あの方の爲に求婚はするものゝ、實は

自分が奥さんになりたい。

― 同入る。

第五場 オリギヤの邸

腰元のマリヤと道化役(名はフェステ)出る。 道化役は例の通りの斑服を被てゐる。

マリヤ

いゝえ、どこへ往つてたかをおいひなさい。 でなきやお前さんの取做しの爲に剛毛一筋入るだけでも口は開かないよ。 今に絞首になツちまふよ、お邸をあけた答で。

道化

絞首にならうよ。 絞首になりや、そら、「予は敢て色を怖れず」だからなア。

マリヤ

その理由を知つてゝ?

道化 目が見えなくなるからだらう。

マリヤ ま、なさけないわねえ。わたしやその「色を怖れず」て諺が何處で出来たかを知つてるわ。

道化 どこで出来たんだい？

マリヤ 戦争でさ。カラーてのは敵の旗てことよ。だけど、お前が洒落にそれを言ふ分にや、だアれも相手にしやしないから大丈夫だわね。

道化 はアて、神よ、智慧のある手合には智慧を與へたまへ、而して阿呆共をして其才を働かしめたまへ。

マリヤ だが、やつぱり絞首になるよ、長い間お邸をあけたんだから。でなきや放逐されるんだ。しばらく首とお拂ひ箱と、どつちがいく、お前さん？

道化 絞首になつたお庇で、わるい嬢を持たないで済んだ例が幾らもあるよ。だが、おツぱり出されるのは夏に限るね。

マリヤ ちや、お前さん、覺悟をしてるの？

道化 といふわけでもないね。けれども約二項だけは決まつてるよ。

マリヤ 第一の鉤が脱れりや第二の鉤で堪へるし、兩方とも脱れりや股引がすり落ちるといふんだらう。

道化 したり。其通り。圖星。(マリヤ奥へ往かうとする)。さ、ゆかつしやい。若し

あのトビーさんが飲んだくれをやめりやア、お前のやうな伶俐もんは、イリ、ヤちうのどの女に比べたつて、負目のない代物だに。

マリヤ おだまり！ そんなことをいふときかないよ、悪黨……あそこへお姫さまがいらしつた。利口に申し分けをするがいくよ。

マリヤ 入る。

道化 智慧袋さん、どうかわたしに旨い洒落を思ひ附かせて下さい！ 世間には見事お前さんを握つてる積りでゐて、それで存外阿呆な手合がある。お前

に縁のないおれだけれど、或は利口者で通るかも知れない。だつてクイナペーラスが言つたぢやないかい？ 「阿呆らしい利口者であるよりや利口らしい阿呆のはうが優しだ」と……

オリギヤ 姫、執事のマルブリオを伴れて出る。このマルブリオが此喜劇の大立物である。いやに勿體ぶつた口やかましいわからず屋の癖に、おそろしく自惚の強い男である。

お姫さん、御機嫌よろしう！

姫

(不興げに) 此おろか者をあつちへ伴れてツとくれ。

道化

(わざと慌けて、左右を見返つて) おい、わからないのかい？ お姫さんをあつち

へお伴れすのんだツさ。

姫

馬鹿！ おのしはもう干乾びてしまつた上に、不品行にもなりました。もう用はない、出て行きなさい。

道化

お姫さん、わツしの缺點が其二ヶ條だけですなら、酒と異見で治りまッさ。

なぜツて、そら、乾き切つてる處へ酒でお濡りがありや阿呆め生返りまッさ。

それから、不品行は異見すりや治る。治つたとすりや、不品行ぢやない。

が、若し當人が治し得なかつたら、修繕屋(靴直し)を頼んで來るがい。總

じて修繕物は補綴仕立てさ。瑕の附いた美德てのは罪惡ではぎくにな

つてる美德だし、償はれた罪惡て奴は、美德で補綴いである罪惡でさ。此

簡明な三段論法が役に立ちや結構、が、若し立たぬとすると、どうしたら好

いか？ 花が一等うつくしい物であるやうに、難儀をさせるのが一等好い

お談義でさ……(又左右を見返つて)「此おろかを伴れてつてたも」と今おつしや

つたんですぜ。だから、早くさ。

姫

いゝえ、わたしはお前を伴れてゆけといつたんですよ。

道化

こりやどうも飛んだ間違ひでした！ お姫さん、*Quocunque non facit*

monachum” (僧帽を戴く者未だ必ずしも僧ならず)。すなはち手前とても脳髓にまで斑服をかぶつちやをりません。お姫さん、あんたが「おろか」だてことを證明しませうか?

見事、出来るかい?

出来ますとも。手際よくやつて御覽に入れます。

證明して御覽。

それにやア是非お宗旨問答式でいかなくツちやいけませんや。(俄に勿體ぶ

つて)え、わが親愛なるお賢女さん、お答へなさい。

外に退屈まぎらしとてもないのだから、お前の證明を聽いてゐてやりませ

う。

お姫さん、どういふわけで御愁傷です?

お兄さんがお亡くなりになつたからさ。

道化

姫

道化

姫

マルヲ

道化

姫

道化

神

道化

恐らくはお兄さんは地獄へお落ちになつてゐるでせう。いゝえ、お兄さんは、きつと天堂へ登つておいでです。だから、あんたはおろかだ、お兄さんは天堂に登つてると思つてながら、泣いてゐるんだから。…諸君、此阿呆をそつちへ伴れて行きなさい。(覺えず笑ひ出して、マルヲリオを見返つて)マルヲリオ、お前さんどう思ひます? 彼奴が少しはよくなつたやうね。(苦々しげに)はい、さやうで。いざ息を引取るといふ間際までは、まだ幾らかづゝ進歩します。賢者の賢を磨り減らす老耄は、取りも直さず、愚者の愚に磨きを掛けます。神よ、マルヲリオさんに一日も早く老耄を下したまへだ、愚をしていよいよ愚ならしめるためにだ! トビーさんだつて、わッしを生き馬の目を抜く男だとは言ひ得まいけれどね、迎もお前さんを、只の五錢だつて賭けて、



決して阿呆でないなんて誓言は能しなからうよ。

マールゴリオ、あゝいはれて、お前さん、どう返辭をするの？

お姫さま、どう遊ばしたのでございます、あんな淺薄な、取得のない奴を御

最員に遊ばすとは！ 此間も、石頭とも何とも言ひやうのない平凡阿呆に

奴め言込められてをりました。御覽遊ばせ、もうあの通り敗北してをりま

す。お笑ひ遊ばしたり、機會を與へたり遊ばすからですが、でなけりや、ま

るで猿ぐつわです。かういふ月竝の阿呆共を可笑がりなさるお賢者さま

がたは阿呆の下廻りたるに過ぎませぬ。

お、お前さんはあんまり自愛心が強過ぎるから、それで彼等のいふことを僻

んで聞くのよ。寛大な、疚しいとのない、ひがまない心で聞けば、お前さん

が大砲彈のやうに思ふことが案山子の箭も同然よ。阿呆は、悪口ばかりい

つてるやうだけれど、それは職掌なんだから、讒謗ぢやアない。思慮ある

名士は、どんなに人を非難してゐる時でも、決して悪口を言はないやうな  
ものよ。

道化 さア、マーキュリー（巧言の神）さまに、うんと空ツべいをいふ術をお授か  
りなさいまし、阿呆を辯護なさらうてんだから。

マリヤ 又出る。

マリヤ お姫さま、お若い方が御門口へ見えまして、お目にかゝりたいとおつしや  
います。

姫 オ、シノーさんのお使ひかい？

マリヤ それは分りませんが、綺麗なお若い方で、お侶も立派にお伴れです。

姫 内の者で、だれが其人と應待をしてゐるのだい？

マリヤ 御親戚のトビーさまでございます。

姫 あの人なら、すぐ引込ましとくれよ。狂人めいたことしか言はない人だか

ら。よ、いけないよ、あの人は！（マリヤ入る）。マルヅリオ、お前さん、往つて来てくれ、わたしは病中だとか、不在だとか、何とか好いやうにいつてね、歸らせとくれ。……

マルヅリオ入る。と阿呆に

姫 そら、御覽よ、お前の滑稽はもう陳い、だから、みんなが嫌ります。

道化 あんた、つい今、わッしたたちの辯護を下すつたわねえ、御自分の惣領息

子が行くく、我徒の仲間にもなるかのやうに。どうか其息子さんは、し

つかりした脳髓を有たつしやるやうにだ！ なぜつて、ほら、あそこへ一

人ござつた。あの御親類さん何かは、少し使ふと、すぐと破れさうな軟い

脳膜の所有者だからね。

士雷 トビー、やはり多少生酔ひの氣味で、出る。

姫 まあ、また生酔ひなの！……門口へ來てるのはだれです？

トビー 紳士です。

姫 紳士！ どんな紳士です？

トビー そりやその、何だ。……ヒツカッフ！ 畜生！ 鹽緋めが祟りやアがるな！……

：（ふと阿呆役を見て）やい、どうした、阿呆！

道化 へい、トビーさん！

姫 （苦々しげに）叔父さん、叔父さん、あなたどうしたの？ まだ朝ですのに、も

う目が朦朧としてるぢやないの？

トビー 老耄！ 老耄なんか七里けつばいだ。……門口へ人が來てるよ。

姫 だから、それは何者だと聞くのです？

トビー そいつが惡魔なら、惡魔でもよろしい。われに信仰を與へよとおつしや

る。つまり、どうでもいゝんだ。

トビー入る。

姫 阿呆、酔つた人といふ者は何に似てますか？

道化 溺死人にも、阿呆にも、狂人にも似てゐます。適度以上の一盃は人を阿呆

にします、二盃は狂人にします、三盃は溺死人にします。

姫 お前早く往つて検屍の役人を呼んで来て、叔父さんを検めさせとくれ。あ

の人はもう其第三級程度に酔つてますから。もう溺死人程度です。往つ

て監督しとくれ。

道化 いゝえ、まだ狂人程度です。だから、阿呆が監督するんだ、諺通り。

道化 方入る。

マルヲリオ 又出る。

マルヲ お姫さま、御門口の若い男は、是非とも御面談いたしたいと申し張ります

る。御病中だと申しましたところが、それは豫て承知してをるから御面談

がしたいと申します。お睡眠中だと申しました、すると、それもとくより

承知、だからお目にかゝりたいと申します。何と申したものでございませ  
う？ 断つても聴きません。

姫 わたしに會はすことは出来ないとおいひ。

マルヲ さやう申しました。ところが、お目にかゝられなけりや、いつまでも御門

口に、奉行の標木のやうに突立つてゐよう、腰掛の脚よろしくでゐようと

申します。

姫 どういふたぐひの人物だい。

マル やつぱり普通の人類でございませう。

姫 どんな風のさ？

マル 風のわるい青年でございませう。否應なしにお目にかゝりたいなぞと申す

んですから。

姫 いゝえ、どんな人柄の、年頃の男かと聞くのよ。

マル

成男といふほどに齡を取つてもをりませんが、子供といふほどに少くもありません。もうぢきに白豌豆になる莢豌豆、もう殆ど赤林檎だと申してもよい青林檎といふところで、先づ子供と成男の真中の水溜りでございませう。顔は綺麗ですが、口は中々わるうございませう、母親の乳を離れて、まだあんまり久しくもなさうに見えますが。

姫

通してもよろしい。腰元をお呼び。

マル

お腰元、お姫さまのお召しです。

マリヤ 又出る。

姫

面帕をおくれ。さ、顔へ掛けとくれ。オ、シノーさんのお使ひにもう一度會ひますから。

ヴィオラ 男装して侍者役らと共に出る。

ヴィ

此お館の姫君さまはどちらにおいでです。

姫

わたしへ物をおいひなさい。返辭をしませう。

ヴィ

こよなうも麗しく、いみじく、光り耀きたまふ御方に……(といひかけて、躊躇し)どうかおつしやつて下さい、あなたがお館のお姫さまでいらつしやるんですか？ 私はまだ一度もお目にかかつたことがないのですから。むだにお口上を述べたくありません、非常にうまく書かれた口上ですのに、それをまた暗誦するとして、非常に苦しんだのですから……御婦人がた、どうかお蔑みなさらないやうに、私は一寸でも冷遇されると、すぐしよげるんですから。

姫

どこから来たのです？

ヴィ

稽古して来たお口上の以外の事は困ります。さういふことのお答へは準備してをりません。お上臈さま、あなたは此お館のお姫さまですか、さうでないのですかをおつしやつて下さい、お口上を始めたいのですから。

姫 お前さんは喜劇の役者なの？

ワイ いゝえ、さうぢやありません。けれども、悪口されるのを覚悟の上で断言いたしますが、只今勤めてゐます役目通りの者ではありません。……あなたはお館のお姫さまですか？

姫 はい、さうです、自分の物を自分で横領するといふやうなことの無い以上。いゝえ、あなたは横領者でいらつしやいます、あなたがお姫さまですなら。何故なれば、婦人は何もかも夫に引渡さんければならんのですのに、あなたはそれを引渡すまいとしておいで遊ばすのですから。ですが、これはお吩咐以外でした。先づ、あなたをお讃め申す口上を述べまして、それから肝腎のお使ひを申します。

姫 その肝腎の事だけをおいひなさい。讃めるのは免除します。でも、あれを記えるのに大變に骨を折りましたのに、そつくり詩のやうに

出来てますのに。

姫 では、いよく虚辭でせうから、聞くには及びません。實は先刻門口で無作法な物言ひをおしだつたと聞きましたから、どんな變人かと思つてお通しつたのです、口上が聞きたくはないのです。氣が狂つてゐるのなら、お歸りなさい。正氣なら、簡單に。わたしは人の心を狂はせる太陰の感化なんぞは受けてゐませんから、お前さんと一しよになつて、氣まぐれな問答をしてはをられません。

マリヤ (大聲で、ワイオラに) さ、さ、帆をお揚げなさい、船路はあつちですよ。(と出てゆけといふ科をする)

ワイ いゝえ、掃除がゝりさん。わたしはもうちつと爰に碇泊してゐなけりやありません。……もし、お姫さま、此大女を黙らせて下さいまし。

と矮女のマリヤを尻目に掛けて裏をいふ。

姫 してお前さんの用事は？

ワイ いゝえ、わたくしは主人の使ひです。

姫 ま、よつほど怖ろしい事をいふのに見える、口上をいふまでに遠慮斟酌の御大層なのを見ると。いひつかつて来たことをおいひなさい。

ワイ それはあなたに申し上げますことです。けれども開戦の知らせに來たのでも、降参の催促に來たのでもありません。手には橄欖(平和の章)を持つてゐます。私の申すことは大切な、平穩なことです。

姫 でも、最初無作法をおしだつたさうだ。一體お前さんはどういふ人です？ 何用があるのです。

ワイ 無作法をしたのは酷い扱ひをされたから釣込まれたのです。私の身分、私の用事は童貞ほどに大切なことです。あなたがお聴きになれば聖書の詞ですけれど、他人が聴けば邪教の文句です。

姫 (左右を顧みて)みんな此席を避けとくれ。其聖書の詞とやらを聴きますから。

マリヤ 其他入る。

其御本文といふのは？

ワイ こよなうも愛らしくおはします姫君……

と形式的に言ひかけるのを遮つて

姫 ま「慰安をお與へ下さる御教」だこと。幾らでも布疋が出來さうね。一體

その原書はどこにありますの？

ワイ オ、シノーさんの胸にあります。

姫 あの方の胸に！ 胸の第何章に？

ワイ 式通りにお答へしますと、心臓の第一に。

姫 あゝ讀めた。それならば邪教です。もう外に言ふことは無い？

ワイ お姫さま、お顔をお見せ下さい。

姫

わたしの顔と談判をせいと  
いふ吩咐を御主人から受け  
て来ましたか？ そら、それ  
は御本文以外でせう？ け  
れども御戸帳を開いて御尊  
像を見せませう。(と面帕をと  
りかけつゝ) ほら、わたし先刻に  
から此通りでゐましたのよ。  
よく出来てませう？

ワイ

ほんとにお見事です、みんな  
神さまのお細工ですなら。

姫

此彩色は決して剝げないの、



ワイ

どんな雨風に逢つても。  
紅白おのゝ處を得た美しさとは是れです、自然の美妙な手でなくては斯  
ういふ色どりは出来ません。お姫さま、あなたは無類な酷いお方でござい  
ませうぞ、若しそんなお美しいお像を、只一つの寫しをもお遺し遊ばさん  
で、お墓へお納めになつておしまひなさるやうだと。

姫

お、わたしは決してそんな酷いことはしません。美しい點はみんな目録  
にして遺します。一點、一點、遺言状に附箋をして記入させときます。例  
へば、一つ、相應に紅い唇二箇、一つ、薄藍色の目二箇、但し目蓋付き、一つ、  
頸一箇、願一箇、其他いろく、といふ風にね。…お前さんはわたしを讚め  
る爲に使ひに来たの？

ワイ

ま、あなたは、あんまりな程に見識高なお方です。けれども、よしんば悪魔  
にもせよ、お美しい。私の主人の殿さまがあなたに戀ひ焦れてをられま

す。おゝ、あんな眞實な戀は、あなたが無上の美人でおありになつたとて  
も、やつとそれで以て報償なさるに足る位のものですよ！

姫 　　どんな風にわたしを戀ひして？

ワイ 　　拜まないばかりにあこがれて、涙は雨、唸き聲は雷、溜息は火のやうです。

御主人はわたしの心をば知ないので、わたしはどうしてもあの方を愛す  
ることは出来ないの。けれども才徳のすぐれた、立派な、御所領も大きい、若  
若しい、さうして清らかな素姓の方だと思つてゐます。世間の評判もよ  
し、お氣性は寛濶だし、學問も勇氣もお有りだし、丈は高し、姿はよし、綺麗  
な方です。けれどもわたしを愛しすることは出来ない。それはもうとう  
に御存じでありさうなものだに。

若しか私が、主人同様の熱情を以て、あんな風に苦んで、あんな風に半死半  
生になつて、あなたを戀ひしてゐましたなら、さうおつしやつたつて耳へ

は入りませせん。てんで吞込みませんでせう。

姫 　　したら、お前さん、どうするの？

ワイ 　　柳の條で以て御門前に假小舎をこしらへまして、お邸内へ向つて、「わが魂

ひよ」と呼び立てます、さげすまれた戀の切なる悲みを小唄につけて、眞夜  
中にでも大聲で歌ひます。四方の丘に向つて、お名を反響させるやうに呼  
んで、おしやべりの空氣を震動させて「オリギヤよう！」とわめかせま  
す！ おゝ、此天地の間に、お休みなさる處がないやうにします、可哀さう  
だと思つて下さらない以上は！

（惚れぐと見やつて）それぢやわたし負けさうになるわ。・・・お前さんはどう

いふ素姓の人？

ワイ 　　今の身分よりは以上の者です。けれども今とても結構です。侍ひです。

御主人のところへお歸りなさい。あの方をお愛しすることは出来ませせん。



もうお使いは無用ですとお言ひなさい、もつともお前さんが来るのなら格別ですが、此返辭をどうお受けになつたかを知らせるために。さよなら。御苦勞でした。……(といひつゝ、財囊を取りて)わたしの爲に、これを。(と渡さうとする)。

ワイ

(それを押返して)わたくしは日傭ひの使ひ屋ではありませんから、其お財布はおしまひ下さいまし。お報いをいたゞくべき人は主人です。あゝ、戀の神が貴女のお慕ひになる其方の心を、どうか石のやうに酷くなさいますやうに！ さうしてあなたが火のやうにお焦れなされても、其方があなたを、主人同様、冷遇なさるやうに！……さやうなら、美しい酷いお方。

ワイオラ 入る。

姫

(見送つて、うつとりとなつて)「どういふ素姓の人？ 今の身分以上の者です、けれども今とても結構です。侍ひです。」さうよ、勿論侍ひでせうよ。物

ごしといひ、顔だちといひ、爪はづれといひ、立振舞といひ、氣立といひ、どうしたつて立派な武士だもの。おつと、さう早まるわけにはいかない。主人と家來が入代らない以上は。あらまア！ こんなにも急に人は戀といふ病ひに取附かれるものかねえ？ あのうつくしい若衆の姿が、いつの間にか、そつとわたしの心の中へ忍び込んでしまつたらしい。ま、しかたがないわ。……(奥に向つて)おい、マルヂリオ。

マルヂリオ 又出る。

マル

はい、何御用でございます。

姫

今の、わからず屋の使ひの者を追掛けとくれ、あの公爵の家來を。指輪を置いて行つたの、わたしが取るか取らないかをも聽かないで。こんなものは要らないといつとくれ。其主人に當座の氣安めをいつたり、望みを抱かせたりしてはいけないとお言ひ。わたしは申し入れに應じないのだから。

若しあの若い者が明日にもこつちへ来るやうなら、其理由を話しませうと  
おいひ。急いでよ。

と指輪を渡す。

マル

かしこまりました。

指輪を受取りて入る。

姫

ま、わたし半夢中でしてゐるわ。逆も智慧の力では制し切れないほどに、此  
目のがわたしを誘ひ出しさうでならない。運命よ、力をお見せ。人間は  
自分をどうすることも出来ない。宿命はまぬかれやうがない。成るやう  
になれ。

入る。

\* \* \* \* \*

### 第二幕

#### 第一場 海岸

或國の水軍の將校アントニオとヴィオラの學生の兄セバスチアン  
と出る。

アント

もう逗留はしないといふのですか？ わたしが一しよに行くのもいけな  
いといふのですか？

セバス

はい、失禮ですけれど。わたしには暗い、皮肉な運星が附纏つてゐますか

ら、それが、あなたにまでも、どんな悪い影響を及ぼすまいものでもない。ですから、お別れを願ふんです、禍ひを自分だけで脊負ふために。あなたに少しでも御迷惑をかけるやうでは、恩に報いる所以でありませんから。せめて、どちらへおいでなさるのかを知らせて下さい。

セバス

いゝえ、それはいへません。どこも當もなしにぶらつき廻るんですから。と申したものの、お見受けするところ、あなたは非常に温厚なお方で、わたしがいふまいとすれば、敢てそれを聴かうともなさらない、ですから、禮儀上、却つて有りのまゝに申さねばならないやうに感じます。では、アントニオさん、御承知おき下さい、わたしはセバスチャンといふ者です、ロデリゴーと申したのは假名です。父はお聞き及びでもありません、彼のメサリン市のセバスチャンです。死後に、わたしと妹とを遺しました、二人は同じ時に生れたのでした。神々の御意であつたなら、二人ともあのまゝ死ん

アント

だでせうに、それをあなたがお變へなすつた。すなはち、あなたがあの荒浪からわたしを救ひあげて下さつた數時間前に、妹は溺死したのでした。

セバ

妹は、わたしによく似てゐるといはれてゐました、けれども美人だと評した人も多勢ありました。わたしはそれを深く信ずるほどに妹の美を激賞することは出来ませんけれど、それでも斯んな風には斷言し得ます。あれの氣立は、悪意を持つてる者でも、美しいと讚めないわけにはいかなかつたらうといふ位には。その妹は、もうとうに鹽からい水に溺れて、死んでしまつてゐますのに、今またわたしは、此目から出る鹽から水でつい、あれの思ひ出までも溺らしてしまひさうになりました。

アント

失禮な御待遇をいたして、甚だ相済みませんでした。

セバス

おゝ、アントニオさん、何かと御厄分を掛けたのをお赦し下さいませ。

アント

わたしを失望させて殺さうといふお氣でないなら、お侶をさせて下さい。

セバス

折角の今までの御深切を無になさうといふのでないなら、言ひ換へれば、一旦お助けなすつた其男を殺さうといふお積りでないなら、そんなことはおつしやらないで下さい。もうこれでお別れします。わたしはまだ胸が一ぱいになつてゐます、心持が、どちらかといふと、阿母流になつてゐます



から、ちよつとでも急處に觸られると、目が一切のお話をしさうでしかたがない。わたしはオ、シノー公の館へ往く積りです。さやうなら。(と入る)

アント

もろくの神々がお前をお護りなさるやうに！……あのオ、シノー家にはおれの敵が大勢ゐる。さうでなければ直にもお前をたづねて會ひに行くのだが……いや、どんなことが起つたつてかまはん、あくまでも慕はしいお前だ。危険なんかは遊戯も同然だ。行かう。

セバスチャンの跡を追つて入る。

第二場 街上

ワイオラ 例の男装のまゝで出る。とマルブリアが追つて出る。

マル

あなたはつい今がたオリギア姫さまのお邸においで、ございましたか？

ワイ

はい、さうです。相應に急いで、只今こゝまで來たところです。

マル

お姫さまがあなたへ此指輪を御返却になります。先刻持つてつて下さると、斯うして追掛けて来る世話はなかつたのでした。尙、お姫さまには、公からの物は、以後とも、決していたゞかないと申されます、さうして御主人のお申し込みは全く絶望であるといふことをお傳へ下さるやうにとの事です。それから、もう一つ。あなたにも二度と此事に就いて御推参なさらんやうにとの事です、御主人が此御返辭をどうお受けになつたかの御報道のためなら格別ですが……お納めなさい。(と指輪を地上へ抛げる。)

ワイ

(不審さうに)わたしから指輪を……いや、それは受取りますまい。

マル

これさ、あなたは焦れて、それを抛げ附けなすつたさうだ。だから、同じやうにして返せといふ吩咐です。屈んで拾ひなされる價值のあるものなら、それ、そこにあんたの目の前にある。が、さうでなけりや、だれになりと拾はせなさるがい。

ワイ

かう言ひ捨て、マルヂリオ入る。

指輪なんか置いて来やしなかつたのに。どうしたといふのだらう？ 若しかわたしは男の装をしてるのに、あのお姫さんが思ひ附いたといふやうなことがなければよいが。わたしの顔ばかり見詰めてゐた。見るのに氣を取られて、舌が働かなくなつたのかと思つたほどに。さういへば、ちぎれ〜に何だか譯の分らないをいつてたわ。きつと、わたしに惚れたんだ。戀がさせる偽計で、あんな武骨者を使つて、わたしの心をそびいて見るんだ。「公からの物なんかは決して貰はない！」 何にも贈げなざりやしないんだのに。わたしが其當人なんだ。きつとさうだ。が、若さうだとすると、お氣の毒なお姫さん、夢に見る男の人を思つたはうがましよ。嗚呼、化けるといふことは非道な事なんだ。化けられ、ばこそあの奸計上手の敵めがいろ〜の非道を働く。顔の綺麗な偽り者は容易く女の蠟のや

うな心に其形像を印し附ける！ あゝ、それは脆い女心が原因だ、わたしらの所爲ぢやアない。さう生れ附いてればこそ然うなんだもの。……まアどうなるんだらう？ 殿さんはあの方を一生懸命に思つていらつしやる。と、わたしは、お化けのわたしは、殿さんを一生懸命に思つてゐる。と、お姫さんは、誤解して、わたしに惚れてゐなさるらしい。つまり、どうなるんだらう？ 男になつてゐるんだから、殿さんを思つたつて駄目だわ。本當は女なんだから、あゝ、お氣の毒な！ オリギヤ姫さんがどんなに無駄な溜息をなさることだらう！……あゝ、時よ！ これを釋すのはお前の役だ。此結び玉は、迎もくわたしなんかにはや解かれやしない。

入る。

第三場 オリギヤの邸

士爵 トビーと士爵 アンドリユーと出る。

トビー さアく、こつちへく。夜中が過ぎても寢床へ入らないのは、取りも直さず、早起きだらう。「夙に起き出ヅルハ生を衛る所以ナリ」てのは、君も知つてゐる通り……

と 寺子屋時代に習つた「實語教」式の教科書の文句を持出す。  
無學なアンドリユーにはそんな文句さへ解らない。

アンド いゝや、我輩はそんなこと知つちやをらん。けれども夜晩くまで起きとるのは、やつぱり、夜晩くまで起きとるんぢやらう。

トビー そんな結論があるもんか！ さういふ屁理窟は空徳利同様、おれは大嫌ひだ。夜中過ぎまで起きてゐて、それから床へ入る、そら、すぐ夜が明けるだらう、だから夜中過ぎに床へ入るのは、朝早く床に起きて居ることになるんだ。…おい、お互ひは四原素（土、水、火、風）のお庇で生きてるんだらう？

アンド さういふ話ぢや。けれども我輩は、むしろ食つたり飲んだりするからぢやらう思ふとるがね。

トビー お前は學者だなア。だから食つたり飲んだりしようよ。…おうい、メリヤン！ 大酒盃だ！（メリヤンといふのはマリヤのことである）。

道化 方出る。

アンド あそこへ阿呆めが来たわい。

道化 や、これは、兩君！ 君たちは「こちとら三人」て晝を見たことはないかい？

トビー 阿呆、いゝとこへ来たな。さ、引取歌を歌はうぜ。

アンド

此阿呆は全く好い喉を有つとるなう。我輩は四十志を棒に振つても可いから、阿呆の有つとるやうな、あゝいふ脛やあゝいふ好い聲が欲しいわい。

…お前、實にうまく洒落れたなう、昨夜は。ビグログロマイタスの話だの、クエーバスの赤道を通るエイビヤ人の話だのは面白かつたわい、實際、お前の情婦にと言つて、六片持たしてやつたが、受取つたかね？

道化

君の御芳念は正に着服に及びました。如何となれば、マルザルオの鼻は決して鞭の柄ぢやありませんし、姫さんの手々は白いし、マーミドンは居酒屋ぢやアありませんからね。

アンド

（わけが分らんのに馬鹿笑ひをして） うまいねえ！ こりや全く最上等の洒落ぢや、要するに。 さ、歌ぢや。

トビー

さ、さ。六片くれてやる。一つ歌つてくれ。

アンド

さ、我輩も一枚ぢや。若し一人の武士が一…

道化

色ッばい歌ですか？ 或は修身處世の歌で奴かね？

トビー

色ッばい奴、色ッばい奴。

アンド

さうぢやく。修身の歌なんざ要らん。

道化

(歌ふ)。

あゝ、これ、わしの情婦、どこ往きやるッ！  
あゝ、これ、お待ちやれ、わしぢやくによ。  
高くも低くも、唄ったひましょ。  
往くのはお止しよ、ほッつきあるくも、  
好いた同士がめぐりあふまで。  
それを聴者は先刻ごぞんじ。

アンド

うまいねえ。全くうまいねえ。

トビー

上等、上等。

道化

(又歌ふ)。

現在を命か色戀の習ひ、  
逢うた時だけ互ひの笑顔。  
後刻未々は當にはならぬ。  
くづ附いちや何にも出来やしない。  
さアさア、接吻しな、たんとく。  
若い時や二度ない、長かない。

アンド

甘露的な聲ちふぢやくね、實際。

トビー

(わざと口真似するやうに) 傳染的といふんだ、あの息は。

アンド

甘味があつて而も傳染的ぢやく。(と受賣りをしたもの、傳染的の意味は解つてはぬない。)

トビー

(ひやくして) さうさ、鼻で聴くとすりやア、傳染的に甘味があるといふ聲かも  
知れんぞ。…だが、おい、實際、蒼空を踊らせようてのかい？ 眠てる鼻を



びつくりさせるやうな引取歌を歌つて、一人の織子から魂ひの三箇も誘き出さうといふのかい？ それをやらかさうてのかい？

アンド 我輩に好意を有するのなら、やつてくれたまへ。「引取」にや随分苦勞をした我輩ぢや。

道化 實際、引ツつりで苦勞をする方がありま、火傷をして。

アンド 全くぢや…今日の「うぬ、畜生め！」て奴にしよう。

道化 「黙んなく、うぬ、畜生め！」て奴ですか？ あれだと、あんたを強制的に畜生と呼ばんけりやならんやうになりますぜ。

アンド (何か誤解して得意顔に) 人に畜生めと強制的に呼ばせたことは、今までにも随分あつた。…阿呆、はじめてくれ。「黙んなく」で始めるんぢや。

道化 「黙んなく」とおつしやつちや、始めらりやしませんや。

アンド (馬鹿笑ひをして) うまいことをいふ。…さ、はじめりぢや。

三人いはるく、中途から文句を引取るやうにして馬鹿聲を張りあげて歌ふ。  
此馬鹿騒ぎの最中にマリヤ出る。

マリヤ 何てまア亂竹騒ぎをしてゐるんですよ！ きつと今にお姫さまがお執事のマルゴリオさんと呼んで吩咐けて、貴下たちを逐ひ出しツちまひなさるでせうよ。

トビー 姫さんは支那人だよ、こちとらは策士だ、マルゴリオはラムジの杓だ。そこで(と一寸調子づいて節を附けて)「こちとら三人は愉快な三人！」やい、おれと彼女とは親戚關係だらうぢやアねえか？ 同じお血統さまだぞ！  
べらぼうめ！ 姫さんだ！ (又急に調子づいて、小唄を歌ひ出す)。「むかしバビロンの名高い男ア、姫さん、姫さん！」

道化 こりや恐れ入つた。旦那は道化がうまいものだ。

アンド うん、浮かれて来ると、中々やるよ。我輩もやるけれどね。我輩は、あの仁のやうに味ようはやれんが、其代り素直ぢや。

トビー (歌ふ)「あゝ、この極月第十二夜は」……

マリヤ 後生ですからよ、しづかに！

執事 マルゾルオ出る。

マル (例の如く苦々しげに) 皆さん、どうしたといふんです？ 氣でも狂つたのですか？ 此様な真夜中に、まるで鑄掛屋か何かのやうな馬鹿騒ぎをなさるのは、分別も作法も體面も何もかもお失しなすつたのですか？ 此お姫さまのお邸を居酒屋扱ひになさるんですか、靴直しが歌ふやうな唄を、聲を和げもいたはりもなさらんで、がなり立てなさるのは？ 時をも處をも人格をもお考へなさらんですか？ ちつとは、間のわるいといふこともお考へなさい。

トビー 間のいゝわるいが分らなくつて、唄が歌へるもんかい？ 何いつてやがる？ べらぼうめ！

マル トビーさん、斯うなりや露骨に申します。お姫さまの仰せです、御親戚だからお世話をなさいますものゝ、あなたの御不行跡には全く愛想を盡しておいで、す、で、若し向後御不行状をお改めになりますやうなら、喜んでお迎へもなさいますのですが、さうでなくば、あなたが只今にも此お邸をお立退きなさりますやうなら、お姫さまは異議なくさよならをおつしやらうといふのでございます。

トビー (そらうそぶいて、よろめき、マリヤに戯れながら、當時の流行唄を少し作り替へて歌ふ)「さよなら、和御料、どうでも往かんせにやならぬゆるる」。

マリヤ (トビーの戯れるのを排けながら)よ、およしなさいよ、トビーさん。

道化 (トビーがマリヤに突き離されてよろめく其目色を見て、是も同じ唄の次の句を作り替へつゝ歌ふ)

「あの目がそウれと知らせます、今日の日の目も既うこれまでと。」

このうちにトビーは床上に平臥つてしまふ。

マル (苦々しげに見やつて) 呆れたものだ!

トビー (平臥つたまゝで、尙次の句を作り替へて歌ふ) 「けれどもおオれは死にやしない。」

道化 だつて、トビーさん、死んだも同然でさ、その態は。

マル まことにお名譽なこつてすよ。

トビー (かまはず平氣で作替への句を歌ふ) 「あの仁を往かせたものかいな?」

道化 (調子を合せて、同じ作り替への句を歌ふ) 「そしたらどうかいな?」

トビー 「かまはず平氣で往かせるか?」

道化 「いや、いや、いや、いや、いや。」

トビー (呆れて突立つたまゝてゐるマルドリオを見返つて) 何だと? 間のわるいことを知ら

ん? 嘘を吐け? たかゞ執事たるに過ぎんぢやないか? やい、よしん

道化

ば汝が品行が善いからつて、菓子も酒も絶対に禁制でことがあるか?  
さやう、聖アーンさまも御照覽遊ばせだ。のみならず、こちとらの口は薑  
で熱つてる位のものだ。

トビー

その通り。 (マルドリオに) おい、その鎖を麵麩の碎片で磨いて來な。  
: マリヤ、さ、大酒盃だ!

マル

(マリヤに) メリーさん、お姫さまの御愛顧を輕蔑するやうな料簡がないのな  
ら、かういふ不行儀、不作法の介添役はしないやうにしなさるが、今  
にきつとお姫さまのお耳に入りますよ。

マルドリオ入る。

マリヤ (見送つて) 往つて耳をお振り(驢馬のやうに!)

マリヤの此嘲弄をきつかけに一同顔見合せてマルドリオの後  
ろ影へ嘲笑を浴せる。アンドリユーまでが引込まれて笑ひな

がら

アンド 腹の空いとる時には、酒飲むのも好いもんぢやが、あんな奴に決闘を言ひ込んで、わざと違約して、いろく〜と馬鹿にするのも面白いこつちやぞ。

トビー やるべしく。挑戦状はおれが書いてやる。でなきや口上で傳へてやらう、お前が憤激に及んでることぞ。

マリヤ トビーさん、今夜は忍耐なさい。今日は、お姫さまは、あの公爵さんとの若いお使ひが来なすつてからてもの、焦々しておいで遊ばすんですから。

マルゴリオさんのことはわたしに任せておいて頂戴。今にわたしがうまアくだまくらかして、みなさんのいゝお慰み物にしますから。若しさうしなかつたら、わたしは獨りで寢床へ入るだけの智慧もない者だと思つて下さい。きつとやつて見せますよ。

トビー おい、何か知らせてくれ、彼奴の平素の事を。

マリヤ どうかすると、あの人は、まるで清教信者のやうよ。

アンド おゝ、さう知つとつたら、奴を大のやうに打ん撲つてくれたものを！

トビー え、清教信者なら撲る？ どういふ特別の理由があるんだい？

アンド どういふ特別の理由もないけれども、理由は十分あるんぢや。

マリヤ なアにね、清教信者でもなけりや他の何でもないのよ、おッ通しては。其時、其場の都合で變るんで



すから。馬鹿の癖に氣取屋で、朝廷訶なんかは空で記えて、つらくと  
並べますの。そして己惚れ切つて、自分ぢや、いろんな才能や美德をし  
こたま有つてる積りなんですの。ですから、じつと顔を見たりなんかす  
ると、もう惚れてるんだと思ひますの。其弱点を利用して、わたし返報し  
てやらう思ふの。

トビー

どうしようてんだいッ。

マリヤ

あの男の通る途に宛名のない艶書を落しときますの。其仲に書いてある  
髭の色や脚の格好や歩き振や目附や額附や顔の色なんかで以て、あの男が  
其當人はたしかに自分だと思ふやうにしときますの。お姪御さまのお姫  
さまそつくりの字をわたし書くことが出来ますから。忘れた時分に見る  
と、お姫さまのとわたしの書いたのとは、區別が附かない位なのです。

トビー

妙々！ わかつた。

アンド

我輩にもわかつたぞ。

トビー

お前の落しといた其艶書を奴が拾つて、それは姪が奴へよこしたんだと思  
ふ、そこで惚れられたと思ふ、と斯ういふ段捕だらう。

マリヤ

全くさういふ段取にする積りですの。

アンド

さういふ段取なら、あの男きつと生捕になるぢやらう。

マリヤ

阿呆鳥ですからね、大丈夫。

アンド

そいつは素敵ぢやらうねえ！

マリヤ

無類飛切の遊びですよ。わたしの此處方はあの仁にや必然きゝますよ。  
あなたがたお二人は立聞きしてゐて下さい。それから此阿呆さんに三番  
目を勤めて貰ひませう。あの仁が其艶書を拾ふ時分に、其場處にゐて、ど  
うそれを解釋するか聽いてゐて下さい。今夜はもうお寝みなさい、さうし  
て成行を夢に見ていらつしやい。さよなら。

マリヤ入る。

トビー さよなら、女丈夫王。

アンド 全くあれは感心な女子ぢや。

トビー 奴は機敏な小獵犬だよ、さうしておれに惚れてやがる。が、そんなこと如何でもいゝや！

アンド 我輩も曾て惚られたことがあつたて。

トビー さ、寝るべし。お前、もつと金を取寄せなくちやいけんよ。

アンド 君の姪御さんが手に入らんとすると、我輩はえらい目に逢ふわい。

トビー ねえ、君、もつと金を取寄せるべし。とゞの詰り、彼女が手に入らなかつたなら、おれを馬鹿を呼ぶがいゝ。

アンド そりや呼ばんではおかん。君が怒つてもかまはん。

トビー さア、さア、西班牙酒でも酣して飲まう。もう寝るにや晩過ぎる。さア、

さア。

二人とも入る。

第四場 公爵の館

公爵 オ、シノー、グイオラのシーザリオ、キューリオ及び其他出る。樂人やら、後れて出る。

公 何か歌を聴かせろ。さ、……(とグイオラにいひかける途端に樂人が出て来る)お、お早う。……(と又グイオラに)さ、シーザリオ、あの歌を。それ、昨夕聴いたあの、古い、古風な歌を。あれを聴いてると、憂悶を大變に紛らされるやうに思つた、いつもの、あの陽氣な、技巧的な、間の早い、目まぐるしいやうな小

唄なぞとは違つて。さ、もう一節。

キユー 失禮でございますが、あれを歌ひます者が、只今ここに居りません。

公 だれが歌つたんだ?

キユー 道化役のフエストでございます。オリギヤ姫さまのお父上が御最良に遊ば

しました阿呆でございます。お館へ折々参ります。

公 探して来い。(キユーリオ入る。) 其間あの曲を奏してろ。(ヴァイオラに) ころ、こ

へ来い。若しおのしが戀をするやうだつたら、其なつかしい苦みの折々に、おれの事を思ひ出してくれ。眞實の戀をする者は、みんなおれの通りなんだから。戀人の面影だけは片時も目を離れないけれど、其他の事は、何でもすぐ忘れてしまふ。ふはくと氣が變る...おのしはあの曲をどう思ふ?

ワイ あの曲は、戀の帝座の反響を、さながらに傳へてをります。

公 うまいことをいふなう。おのしは、齡はまだ若いけれど、どこかに必定可

愛いと思ふ和御前があつたらう? あつたか?

ワイ はい、ございます。

公 どんな風の女だ、それは?

ワイ あの、御前に似てをります。

公 ちや、惚れるほどぢやないなう。齡は幾つだ?

ワイ 御前と同じくらゐです。

公 おやく、齡取り過ぎてゐるねえ。女は自分よりも齡上の夫を迎へるやうにするが、いゝのだ。さうすれば夫婦仲がしつくり行く、いつも夫の氣に入るやうに釣合ひを取ることが出来る。といふのは、われと男といふ者は、何のかの自讃はするものゝ、女よりも浮氣なもんだ、おそろしく戀焦れてるかと思ふと、ふらくと氣が變る、いつの間にか忘れる、掻消したやう

ウイ

全まうたくさやうでございます。

公

ちや、おのしも自分じぶんよりも年下とししたの戀人こひびとをこしらへるがいつ、でないといつまでも可愛かあいく思おもふわけにいかんよ。女おんなといふ者は薔薇ばらのやうなものだからね、綺麗きれいに咲さいたなと見るうちに、もう花はなが散ちるものだからね。

ウイ

さやうです。何なんたる情なさけないこととございませう！ やつと盛さかりになつたと思おもふ途端とたんに散ちつてしまひますのは！

キユーリオ、道化方たうけかた(フェスト)をつれて出る。

公

(道化方たうけかたにお、汝きま歌うたつてくれ、昨夜ゆうて聴きいた歌うたを。……おい、シーザリオ、聴きいてる、古い、平凡へいはんな歌うただ。日向ひなたぼこりをして、絲いとを紡つむいだり、骨ほねの針はりで物ものを編あんだりする苦勞くらくら知らずの村娘むらむすめどもが歌うたふ唄うただ。大昔おほむかしらしく、いかにも暢のん氣きに、たわいもないことをいつてる間に、無邪氣むじゃきな戀こひの眞實しんじつが見みえる。

道化

よろしうございますか。

公

あゝ、歌うたつてくれ。

樂人がくじんが音樂おんがくを奏そうしはじめる。

道化

(歌うたふ)

來きをれ、最期さいごよ、來きをるなら來きをれ、杉すぎの柩ひつぎに埋うづめてくりやれ。  
絶たえよ、此息このいき、絶たえるなら絶たえろ、むごいあの兒こに殺ころされまする。  
縫ぬうてたもれよ白しろかたびらを、縫ぬひ目めくに水松みづまつを挿さして。  
又またとあるまいこの思おもひ死じ。

花はなを撒まくなよ、うつくし花はなを、



わしの柩にや只黒布を。  
 だれも死骸に物いうてくれな、  
 骨を埋める其際とても。  
 やくに立たない溜息、吐息  
 させぬ其ため、深切者の  
 知らぬ處へ埋めてたもれ！

公 (貨幣を與へつゝ) そら、骨折賃だ。

道化 骨折ぢやありませんや。 わッしの道樂でさ、こりや。

公 ぢや、道樂の報酬だ。

道化 なるほど。 道樂(放蕩)にや早晚應報が來ますね。

公 御苦勞だつたが、どうかもう去つてくれ。

道化 (獨白的に) さ、さ、氣むづかしやのサタアン神さんをお守り神になさいまし

だ。裁縫師に吩咐けて、五色にも七色にも變る交織絹の下被をお拵へなさ  
 いだ。まるで猫眼石よろしくて御機嫌だ。かういふお人は海へお出かけ  
 になると好いのだ、いろんな事が出来るからね。いろんな處へ往かれるか  
 らね。當なしの船旅の有りがたさはそこに在るからね。…さよなら。

道化方入る。

公 他の者もみんな退れ。

キユーリオ及び侍者役樂人ら退く。

シーザリオ、おのしもう一度、あの例の、此上もなく酷い婦人のところへ往  
 つて、さういつてくれ、おれの戀は俗人のとは異つてずっと高尚なのだか  
 ら、汚い地面なんかは些も大切に思はない、あの婦人の資産なんかは運命  
 も同様に軽く見てゐる、けれども「自然」の靈腕で鏝められた靈妙不思議な  
 寶玉である其人には、此魂までが引附けられると、さういつてくれ。



ワイ でも、どうしても御承諾

なさいませんでしたら、

おれやさういふ返辭は聽

かん。

ワイ

でも、致しかたがござい

ませんでせう。たとへ

ば或婦人が、それは随分

ありさうな事でござい

ますが、あなたがオリギヤ

さまを思つて

おいで遊ばすほどに慕つて、

焦れ抜いてゐますといた

します。が、あなた

は其婦人をお好きなさい

ませんで、いやだとおつし

やいます。さうおつし

やられたつてしやうがあ

りますまい。

女の胸には、迎も、おれ

の此心臓中に鼓動して

るやうなこんな強い熱

情な、

公

んかは存在しない。女の狭い心臓は、到底これほどの思ひを包藏し得ないんだ。永續きのしないのが定りだ。女の愛情は食欲のたぐひだよ、肝臓の衝動ではなくつて、口腹の作用だ。だから、食傷ぎたり、もたれたり、吐氣を催したりする。が、おれの愛は海のやうに限りがない、いくら貪食したつても消化することが出来る。おれのオリギヤを思ふ心を女の愛なんかと比べてくれるな。

私わたくしが存ぞんじてをりますところでは……

おのしが存ぞんじてをる所では、どうだといふんだ？

女をんなとても、男をとこに對たいしての情合じやうあひの深ふかいことは、實際じつさい、少すこしもわれ／＼と異かはりま

せんのです。私わたくしに妹いもうとがございしましたが、ある男をとこを戀こひ慕したつてをりました。

若わかし私わたくしが女をんなでございしましたなら、ちやうどあんな風ふうに御前ごぜんさまをお慕したひ申まを

したでございませう。

ワイ 公 ワイ

公 さうして其戀には、どんな履歴書きがあつたり？

ワイ まつたくの白紙でした。何にも口へは出しませんで、薔薇のやうな頬を螟蛉同然の其祕事に食はせくして、憂き思ひに病み窶れ、蒼ざめて、齷齪込んで、「忍耐」の像で、もあるやうに、悲しい中を笑ひ顔をして、じつとしておました。これこそ眞實の戀ではないでせうか？ 男は口へ出して、もつとく強いこともいひますけれど、眞情以上を見せびらかすことが幾らもありません。誓言を聴くと如何にも眞實さうですけれども、情はそれほどないことがあります。

公 で、おのしの妹は、其戀煩ひの爲に死んだのか？

ワイ 父の血統は、私の外には、女の子も男の子も、もう無いのでございます。けれどもまだよくは分りません。…（急に氣を變へて）お姫さんのところへ往つて参りませうか？

第五場 オリギヤの邸

トビーとアンドリユーとオリギヤの家來のフアビヤンと出る。

公 さう、それが肝腎だつた。急いで往つて来てくれ。この寶石を渡して、おれは決して退却はしない、拒絶は受けないといへ。

入る。

トビー こゝへ來たまへ、フアビヤン君。

フアビ いや、参りますともく。假にもさういふ御趣向の仲間入を能しないやうですなら、悒鬱の膏で煮り殺されたはうがいゝくらゐのものでございます。あの吝嗇坊の、嗚鳴屋の惡黨野郎に赤ツ恥を搔かせようてんだが、どうだ

い、賛成かい？

フアビ 大賛成です。彼奴のお庇で、手前はお姫さまの御不興を蒙つたんでござんせう、例の熊窘めの一件で。

トビー 奴を怒らせるために、又熊を持出さうよ。さうして思ふさま奴を馬鹿にしてやらう。なア、アンドリユー君。

アンド 若しさうせんやうちやと、お互ひに一生の遺憾ぢや。

トビー (二方を見て) あゝ、小悪黨めがやつて来た。

マリヤ 出る。

おい、どうしたい、印度の礦物。

マリヤ さ、あなたがた三人とも、黄楊の蔭にお隠れなさいね。マルドリオさんが今此道をやつて来ますよ。先刻から、もう半時間ほども、あの仁、日向で以て、例の通り、自分の影坊師にお辭儀の稽古をしてゐましたの。ねえ、見

てらつしやい、滑稽なことが好きなら。此艶書を見ると、きつと仔細らしい顔附をした大馬鹿さんになりますからさ。よ、早くお隠れなさいよ！  
……(偽筆の艶書を地上へ抛出しつゝ)ここにさうしといで。今こゝへ腮の下をくすぐつて捕へなけりやならん鱈が一尾やつて来るんだからね。

皆々物蔭へ退く。

マルドリオ 出る。

マル 運命だ。みんな運命だ。マリヤは嘗ておれを好いてるといつたつて。彼

女は殆ど斯ういふことまで言つた、若し男を好くとすれば、あなたのやうな氣質の方を好くだらうと。のみならず、彼女はおれを非常に尊敬してゐる、彼女の後を附け廻る誰れよりも。それをどう解釋したものだらう？

トビー (蔭にて) 悪黨め、うぬばれ切つてゐやがる！

フアビ しっく！ あの仔細らしい様子が、まるで七面鳥よろしくでさ。翼をお

ッ立てゝのさばり歩く様子はとうですッ

アンド 畜生、ぶんなぐつてくれない!

トビー シツ〜!

マル 伯爵マルドリオになるかな!

トビー おやア! 悪黨め!

アンド ビストルでやツつけうよ、ビストルで。

トビー シツ〜!

マル 例のないことぢやアない。ストラチーのお姫さんが衣裳室係の役員と夫婦になつたといふ話がある。

トビー ジェゼベルの馬鹿野郎め!

フアビ シツ〜! いや〜本藝に取りかゝりました。己惚れで膨切れさうて

のはあのニツです。

マル 結婚をして三ヶ月も経つといふと、おれはあの天蓋附の大椅子に腰を掛け

て……

トビー 弩弓はないか? 奴の目玉を叩きつぶしてくれない!

マル おれの左右へ役人どもを呼び寄せる、花やかな模様の附いた天鷲絨の長上被を着用に及んで。やつとソファアから起きて来たばかりのそこなんだ、

オリギヤは後に残つてまた眠てゐるんだ……

トビー 畜生! 地獄へ落ちやアがれ!

フアビ シツ〜!

マル そこですつかり大名の心持になるんだ。威儀嚴然として、左右を見廻しておいて、え、お大儀だが、わしの親族の士爵トビーを呼んでくれ、ば満足

ぢやがといふ……

トビー 畜生! 牢へぶちこんでくれない!

フアビ シツ／＼／＼！ これから／＼。

マル すると、家來の七人が、忽ち畏つて、彼奴を探しに往く。其間おれはむつかしい顔をしてゐる。懷中時器を巻くかな。或は（と自分の胸に垂れてゐる執事に付き物の鎖を見て、思はず）此……（といひかけて、止めて）……寶石か何かをひねくつてゐる。とトビーがやつて来る。うや／＼しくお辭儀をする。

トビー 此野郎生かしちやおかれないぞ！

フアビ 車力で以て沈黙から牽摺り出されるにしても、ま、ま、しづかに！

マル と、おれが手を斯う出す、主人らしいむつかしい顔附で、いつもの笑ひ顔なんかは消しツちまつて……

トビー するとトビーが汝の頬筋を撲り附ける。

マル 斯ういふ「トビー」どの、圖らずも姪御と斯ういふ關係合ひと相成つたに就いては、姪婿たるの特權上、申すのだが……

トビー 何だと／＼！

マル 「あなたは其泥醉癖をお止めなされなけりやいけません。……

トビー うぬ、三ピン野郎め！

フアビ まア／＼。でない、折角の筋立がちぎれツちまひますよ。

マル 「のみならず、あなたはあの馬鹿武士と交際をして、大切な時間を浪費なさる。……

アンド 我輩のことをいふとるんぢや、きつと。

マル 「あの士爵アンドリュート……

アンド さういふぢやらうと思つた。とかく人が我輩のことを馬鹿々々といふからぬ。

このうちにマルブリアは、ふと地上に落してある偽筆書を見つけて

マル は、ア！ いかやうな要件かな是れは？

と偽筆書を拾ひ上げる。

フアピ そら、山鶴めが絹にかゝりさうだぞ。

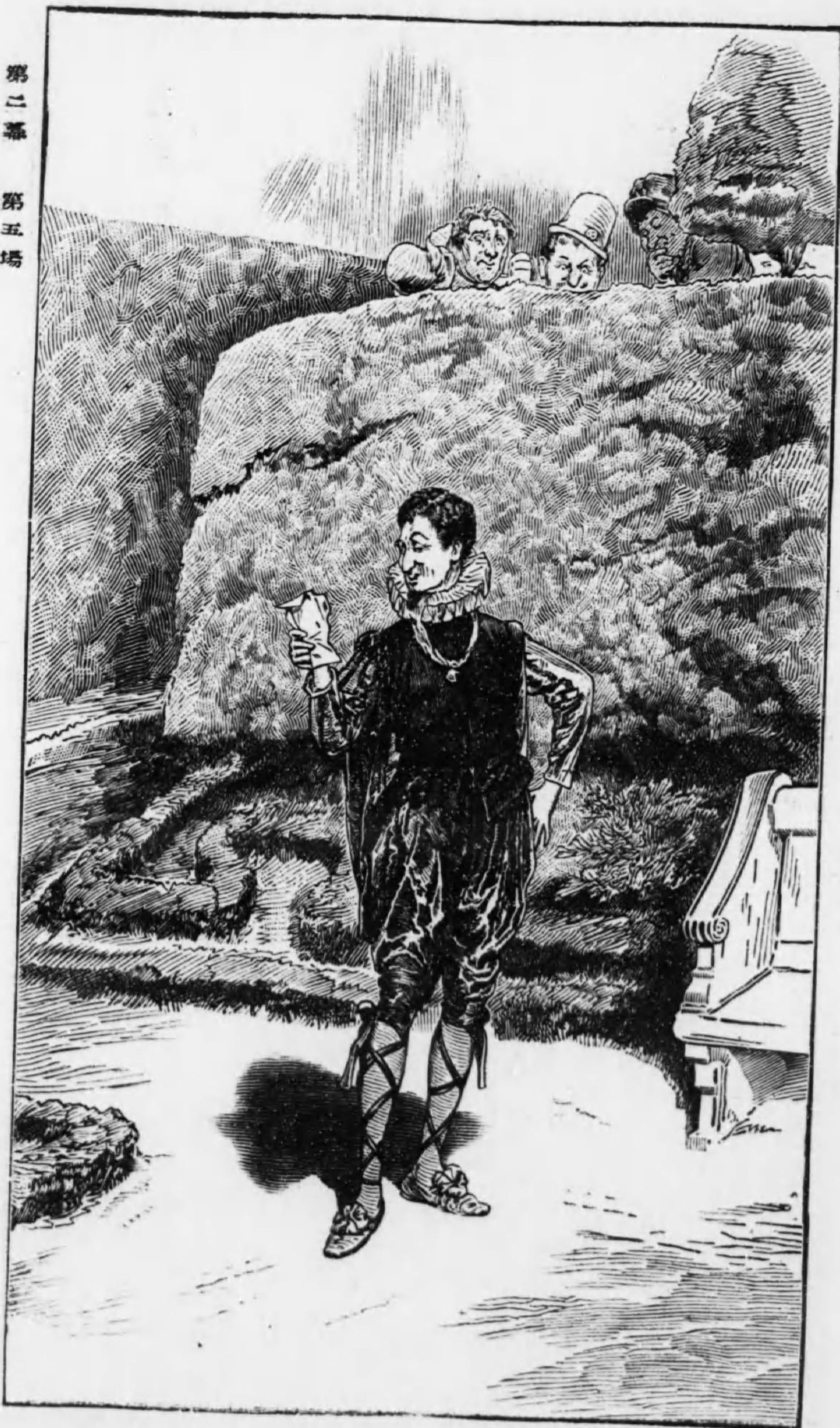
トビー シイツ！ 滑稽の精霊よ、奴を、朗讀させるやうに、誘いてくれ。

マル (偽筆書を熟視して) こりや、たしかに、お姫さんの字だ。このOもUもIもみんなお姫さんのだ。頭文字のPはいつでも斯うお書きなさる。こりや疑ふのは馬鹿々々しいほどにお姫さんの手だ。

アンド OもUもIもみんなお姫さんのだてのは何のこつちやね？

マル (封筒の上書を読む) 「戀ひしきさる名の知れぬ君へ、此れを并びにわらはの眞情を。」 お姫さんそつくりの文句だ！……はい、御免なさい、封じ蠟さん。

(と封を切りかけて) まてよ！ 此印畫もルークリースだ、いつもお姫さんがお用ひなさる奴だ。いよくさうだ。だれへ宛て、お出しなすつたのだ



か?

フアビ もう大丈夫だ、首ッ玉まで陥りましたぜ。

マル (讀む)

神のみぞ知るわが戀。

さばれ誰れを?

唇よ、な動さそよ。

ゆめ人には知らさじ。

「ゆめ人には知らさじ。」 其次の文句は? 韻律がへられてるな! 「ゆ

め人には知らさじ。」 若し此相手が、マルヂリオ、え、若しお前だつたら?

トビー 糞狸め! ちくしやう!

マル (讀む)

召しても使ふべきを吾は戀ひ崇む。

口には言はぬ苦しさはルークリーズの劍のごと

血こそ見えねわが胸を深く貫く。

M、O、A、Iぞわが命の主。

フアビ 月並の駄謎といふ奴だ!

トビ あまツちよめ、うまくやりやがつたな。

マル M、O、A、Iぞわが命の主。いや、待てよ。かうつと、かうつと、かうつ

と。

フアビ 随分思ひ切つて毒を盛つたもんだ!

トビー その毒をまたあの阿呆鷹めが氣まぐれにも引奪はうとしてゐる。

マル 「召しても使ふべきを吾は戀ひ崇む。」 おれを召し使ふのはお姫さんなら

うちやないか? おれは家來、お姫さんは御主人だ。苟くも智慧があつて

考へて見れば、分り切つたこつた。此點に就いては何等の故障もない。と



ころで、結末だが……このアルハベットの竝べ方はどういふ謎だか？  
れが亦多少おれの身に似たことがありさへすれば、……さてよ！ M、O、  
A、I……

トビー おい、あい、さよでございッ！ やつと嗅附けたかな。

フアビ 阿呆犬だから、今に真面目で吠立てるでせう、子供の狐ごツこだとは御存  
じなしに。

マル Mと……マルヅリオ。M……こりやおれの名の頭字だ。

フアビ そらね、やりかけましたらう。阿呆犬に限つて見當ちがひへ駈けて行きま  
さ。

マル Mと……だが、その後がしつくりいかん。どうも證明が附かん。Aなら  
順だが、Oちやちがふ。

フアビ なアに、とゞの詰りは、失望の（と歎息の聲に擬して）おう！だよ。

トビー さうとも。でなかつたら、おれが撲り附けておう！といはせてくれる。

マル それから其後がIだ。

フアビ あいよ。が、目が後にあるなら、鼻の前の立身よりも、踵へ密接いて来る赤  
ツ恥の方が見えさうなものだに。

マル M、O、A、I。此謎は前のよりも分りにくい。けれども少し碎いて見  
やおれの役に立たんこともない。どの字もおれの名にある字だから……  
かうつと！これが本文だ。

(讀む)「若し此書が卿の手に入らば、乞ふ熟慮せよ。運星よりいへば、予は  
卿の上に在り。然れども偉大を怖るゝこと勿れ。或者は生れながらに  
して偉大なり、或者は努めてやがて偉大を得、而して或者は偶々偉大を  
投げ與へらる。卿の運命神は双手を開けり。須からく全精神を傾けて  
彼れを抱擁すべし。而して然なりぬべき身にふさはしかるべく、古皮を

脱ぎすて、鮮新となれ。予が親戚らには反抗せよ、予が家僕らにはむづかしき顔を見せよ。常に理窟つぼく横柄なれ。凡人とは全く異りたる様子をすべし。卿を戀ひ慕へる其女は斯く卿に忠言す。卿の黄色の長靴下を稱讚して、いつも十字形の靴下締を結ばんことを卿に望みし人を忘るゝ勿れ。忘るゝ勿れと敢ていふ。いざや、卿に其心あらば、立身は目前なり。其心なくば、永久に執事たれ、好運の指に觸るゝに堪へぬ只の家僕らと同僚たれ。さらばなり。卿と其地位を交換せんことを願へる

多福なる不幸の兒

眞晝間の野原だつて此れ以上には明白でない。こりや明かだ。これからは威張つてやらう、政治の書を読まう、トビーさんを叱り附けてやらう、くだらん奴らとは絶交しツちまはう、何もかも御註文通りにやらう。想像の駈走るのに此身を任せたからつて、馬鹿を見る氣遣ひはあるまい、ど

う考へても、お姫さんはおれに惚れてるに違ひないから。先だつておれの黄色い長靴下をおほめなすつたし、此脛に十字形の靴下締をしてゐたのをおほめなすつた。それが即ち惚れてゐなざる證據だ。で、是非その好きな服装をしてくれろといふお望みだ。運星のお庇だ、ありがたい。凡人と異つた不愛相な風をして、黄色の長靴下を穿いて、十字形の靴下締をしよう、早速。これといふのも、ジョーヴ神や運星のお庇だ！……まだこゝに追記がある。(と讀む)。

「予のたれたるかは自ら知られざるを得ざらん。卿若し予の愛を甘受せば、之を其笑顔によりて示せ。卿の笑むや最も似あはし。故に、愛しき人よ、予の前に来るや、卿乞ふ、常に笑を含みてあれ。」

ジョーヴ神さま、ありがたうございます。笑ひ顔をいたします。何でもいたします、あなたのお望みなら。

マルゾリオ入る。

ファビ 愉快々々！ この愉快は、たとひベルシヤ王が千兩やるからといはれたつて、賣りやしないぞ。

トビー 此うまい脚色をしやアがつたあまツちよめ、嫌にしてやつてもいゝや。

アンド 我輩もしてやつても好い。

トビー 持参金は要らん、もう一つ如是な筋を書いてくれりやア。

アンド 我輩もさうぢや。

ファイ (二方を見て) あそこへ阿呆鳥を捕ることの名人が來ました。

マリヤ出る。

トビー おい、おれの頸根ツ子を踏附けてくれ！

アンド 我輩のもぢや！

トビー お前の爲になら、おれの自由を博奕の賭物にして、すツてんくの奴隷に

だつてなつてやるぞウ！

アンド 我輩もぢや！

トビー お前がうまくやつたから、野郎め、から夢中になりやアがつた。今に氣が狂ふかも知れない。

マリヤ いゝえさ。ほんとの事をさ。効力があつて？

トビー あつたとも、老女に焼酎でとこた。

マリヤ そこで、此脚色の結果を見ようといふには、此次あの仁がお姫さまのお前へ出るのを見るんです。きつと黄色い長靴下を穿いて行くでせう、お姫さまの大嫌ひの色なの。それから、きつと十字形に靴下縮をして。それも非常に厭がつていらつしやるんです。それから、にや〜笑ふでせう。それがまたお姫さまのお心持には一等そぐはないでせう、御哀傷中なんですもの。ですから、あの仁が取別け目立つて馬鹿氣た男に見えるでせう。

トビー えらい！ 地獄の門番にでもなんなよ、此、伶俐な女悪魔め！  
 アンド 我輩も仲間へ入らう。  
 みなく入る。

\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*  
\*

第三幕

第二場 オリギヤの庭園

グイオラのシーザリオ出る。ついでいて道化方(フェスト)小太鼓を手に持つて出る。

グイ 御機嫌よう、鳴物屋さん。太鼓に依つて君は生計をお立てですか？  
 道化 いゝえ、教會に寄つてゐす。  
 グイ ちや、君は僧さんですか？

道化 どういたしまして。ずつと教會に寄つた處に家があつて、そこに暮してま  
す。教會の傍にね。

グイ さういふ風に言や、王さまが乞食の傍に寝てゐなるともいへるわね、若  
し乞食が王宮近くに住んでゐれば。或は教會が太鼓に依つて立つともい  
へるわね。太鼓を教會の傍へ置いたとすりや。

道化 したりツ。…どうです此節は！ 伶俐な手合に取つちやア言語はまるで  
子山羊の革の手袋でさ。表を出さうと、裏を出さうと、自由自在でさ。

グイ 全く其通りよ。言語を玩弄物にする人達に限つて、すぐに言語の意味をだ  
らしのないものにしツちまふのよ。

道化 いや、言語は碌でもないものになツちまひましたよ、制限附になつて墮落  
してからはね。

グイ どうして？

道化

言語が自由でない以上、さうなつた理由をいふことさへも出来ませんや。  
此頃の言語のやうに、好い加減なものばかりぢやア、それを使つて説明し  
ようて氣にもなれませんや。

グイ

ほんとに、君は極樂蜻蛉だね。一切無頓着ね。  
どうして、これでも相應に頓着しますさ。けれどもあなたなんかや頓着し  
ないや。それが即ち一切無頓着てのなら、あなたが取りも直さず、一人で

グイ

「一切」を脊負ツてるんだ。やれ、御苦勞さま！  
君はオリギヤ姫さんの阿呆さんぢやないかい？

道化

いゝえ、決して。オリギヤ姫さんは阿呆(淫蕩)好きぢやありません。阿呆  
(玩弄物)なんか抱へなさりやしませんや、結婚なさるまでは。阿呆は亭主に  
似たものでさ、小鯉が鯉に似てるやうにね。亭主の方が大きいだけでさ。  
わッしはお姫さんの阿呆ぢやないんです、ほんの駄洒落係です。

ワイ オ、シノーさまのお館で君に會つたつけねえ。

道化 阿呆は太陽と同じに地球ぢうを廻つてあるさまさ、どこでも光つてまき。

わッしがお姫さんのとこ同様にあなたの殿さんのとこへも折々出掛けて行かないやうだつたら、お氣もじさまでさ、あそこにやお伶俐さんのあんなが居たやうだからね。

ワイ わたしにまで一本参らうといふのなら、話はしないよ。(貨幣を一枚出して)お取り。さ、お小遣ひです。

道化 (それを受取つて)もし、ジョーヴ神さま、此次、毛をお下渡しの時分には、この人に髭をおやり下さいませ。

ワイ ほんとに、わたし、欲しくツてならないの、そのお髭さんが。…(傍白) 自分の頃には生やしたくないけれど。…お姫さんはお邸にいらつしやるの?

道化 (此間には、まはさず、貰つた貨幣をひねくりながら)こいつに連れ合ひをこせへたら子

を生まないでせうかねえ?

ワイ 生みませうよ、その二箇を一しよにして預ければ。

道化 わッしはフリジヤの媒介者の役廻りをして、此情夫さんのとこへ情婦姫さんを伴れて來たいなア。

ワイ わかりましたよ。貰ひツぶりが旨いから。(と貨幣を又一枚取出して)さ。(と又遣る)。

道化 でも、大した物をねだつたわけぢやないや、たかゞ物貰ひを貰ふんですからね。クレシダ姫は物貰ひをしてゐたといひまき。…お姫さんは奥にゐなさります。わッし奥へ往つていひませう、あなたが何處から來なすつたかを。けれども、あなたが誰で、何の用で來なすつたてなことは、わッしの天空以外、即ち元素(空氣)以外でさ。いや、こんな文句はもう微臭いかな。

道化 方入る。

ワイ おの男は阿呆の眞似をしてるのだが、それには中々智慧が要る。先づ、相手の氣分や人柄や場合をよく見分けてかゝらなければならぬ。野鷹の様に、どんな鳥でもかまはず、目の前へ来さへすれば、突ツかけるといふのぢやア駄目だ。智慧者の仕事とおんなじに、あれも中々工夫が要り、又骨も折れるらしい。伶俐に當意即妙な阿呆口を竝べるんだもの。伶俐者の阿呆に成下つたのは、それに比べると、始末におへない。

トビーとアンドリユーと出る。

トビー (妙に儀式ばつて)これはごきげんよろしう。

ワイ あなたにも。

アンド *Dieu vous garde, Monsieur.* (これはごきげんよろしうといふ位の意味)。

よせばよくに佛蘭語で話してあげる。

ワイ *Et vous aussi, votre servitor.* (どうぞお心安くといふ程の挨拶)。

と即座に同じ語で答へられたので、佛蘭西語の種切れとなつたアンドリユーは據るなく

アンド どうか以後お心安く。  
と月竝の挨拶をして、ぼかんとする。

トビー (妙に鹿爪に)え、當邸内へ参入あられてはいかゞでござす? 姪に於ては貴下の御入來を切望します、彼女に御所要あつての御入來でござすなら。(わざと此切口上に調子を合せて)いかにも、當お館をさして、船を進めて参りました。お姪御さまは手前の船泊りでいらせられます。

トビー (いよく堅くなつて)え、お脚を御利用なさい、御試運轉なさい。

ワイ お言葉の意味はよく分りませぬけれど、此脚は、これでも、試験済みになつてをります。

トビー いや、お入り下さい申すのです。

グイ おや、諾と御返辭して入ることにいたしましたせう。(と行きかけて、向うを見て) おや、参るには及びませんです。

オリギヤとマリヤと出る。グイオラはそれを迎へて、叮嚀に會釋して

アンド いともくいみじき淑女の君、天よ、よき香りを此君に灑ぎたまへ!

(感心して)あの若い男は旨い挨拶をするわい。「よき香りを灑ぎたまへ」む。

グイ お姫さま、わたたくしは、お許しを蒙つて、特にあなた様だけに、折入つてお

アンド 「よき香り」「お許しを蒙つて」「折入つて」。三句ともいつでも使へるやうに

話(はなし)が申(まを)し上げたいのでございませす。

覚えておかう。(と手帳を出して書き留めてゐる)。

グイ 庭(には)の其入口(そのいりぐち)を閉め(し)て、みんなお退(ひ)り……

トビー、アンドユー及びマリヤら入る。

さ、手(て)を。(と握手を求めらる)。

グイ (わざと手を出さないで、うやくしく)何事(なにごと)なりと、どうぞ御用(ごよう)を仰(おほ)せ附(つ)けられて

下(くだ)さいませ。

グイ 名(な)は何(なん)といふのです?

グイ シーザリオと申(まを)します、以後(いご)お召使(めしつか)ひともおぼしめしますやう。

グイ ま、わたしの召使(めしつか)ひ! 謙遜(けんそん)するのが禮儀(れいぎ)になつてからは、世(よ)の中(なか)が面白(おもしろ)

くなくなつたぢやないの? あなたはオ、シノー公(こう)のお召使(めしつか)ひですのに。

グイ ですが、主人(しゆじん)はあなたのお召使(めしつか)ひです、はい、さうならずにはゐられないと

申(まを)されます。ですから、あなたのお召使(めしつか)ひの召使(めしつか)ひである私(わたくし)はあなたのお

召使(めしつか)ひです。

グイ わたしあの方(かた)の事(こと)は思(おも)つてゐません。あの方(かた)もわたしのこと(こと)なんかをお



胸に書き並べていらつしやらないで、白紙にしておいて下さればよいに！

ワイ お姫さま、私は主人の爲にあなたのお心を和げに参りましたのです。

お、無作法のやうですが、もうあの方の事をいふのは止めて下さい。けれども他の人の爲にいふのならば、わたし天體の音楽を聴くこと以上に喜んで聴きませう。

え、お姫さま……

ワイ

ちよつと待つて下さい。此間あなたはあんなにわたしを迷はせておいて

お歸りになつたで、すぐお後を追はせて、あなたへ指輪を送りましたが、

考へて見ると、あれは、自分をも、家來をも、又あなたをも或は侮辱した行

爲であつたかも知れません。あなたの有でもないものを恥かしい巧み事

をして無理に押附けようとしたのをば、あなたがどんな風にお取りだつた

らうか知らず？ 残酷な風に解釋されやしなかつたか知らず？ わたしの名

をば、あなたがどんな風にお取りだつたらうか知らず？

残酷な風に解釋されやしなかつたか知らず？

わたしの名

をば、あなたがどんな風にお取りだつたらうか知らず？

残酷な風に解釋されやしなかつたか知らず？

わたしの名

をば、あなたがどんな風にお取りだつたらうか知らず？

残酷な風に解釋されやしなかつたか知らず？

わたしの名

をば、あなたがどんな風にお取りだつたらうか知らず？

残酷な風に解釋されやしなかつたか知らず？

わたしの名

をば、あなたがどんな風にお取りだつたらうか知らず？

残酷な風に解釋されやしなかつたか知らず？

わたしの名

をば、あなたがどんな風にお取りだつたらうか知らず？

残酷な風に解釋されやしなかつたか知らず？

わたしの名

お可哀さうに存じます。

それは可愛いといふ心持への階段です。

いゝえ、さうぢやありません。なぜなれば憎いと思ふ敵をも可哀さうに思

ふことはよくありますもの。

(佛然とした體で)それぢや、もう笑つて、澄アしてゐませうよ……(横を向いて、半

分傍白式に)お、世の中よ、下等社會の者が、どうかすると、おそろしく高慢な

振舞をする！ 同じく餌食になる位なら、狼に食はれるよりは獅子に食

はれたはうがよい！ (此時掛け時計の音がする)。時計が無駄に時間を費すと

いつて、わたしを叱つてゐる。  
 ……お若い方、心配なさるな、  
 あなたをどうしようともい  
 ひません。けれど今に智慧  
 も齢も出来秋になりませう、  
 すればあなたの奥さんは立  
 派な御亭主を刈入れませう。  
 ……さ、そちらが出口です、  
 其西の方が。(と例の如く出て行  
 けといふこなし)。  
 ちや、西……行きイ! とい  
 たしませう。(とちよつと時の流



行語を當込んで戯れながら、改めて丁寧<sup>ていねい</sup>に會釋<sup>かいせき</sup>して)お心しづかに御機嫌<sup>ごきげん</sup>よろしう!  
 主人<sup>しゆじん</sup>へはどういふ御口上<sup>ごこうじやう</sup>もございませぬのですか?  
 返辭<sup>へんじ</sup>がないので往<sup>ゆ</sup>かうとする。  
 姫 お待ち。お前<sup>まへ</sup>さんはわたしをどう思<sup>おも</sup>つてゐるの? それをいつて下さい。  
 ワイ さうだと思<sup>おも</sup>し召<sup>め</sup>していらつしやること、其實<sup>そのじつ</sup>さうでないと思<sup>おも</sup>つてゐます。  
 姫 さ、さう思<sup>おも</sup>つてゐるかも知<sup>し</sup>れない、けれどもあなただつて同じくでせう。  
 ワイ ちや間違<sup>まちが</sup>つてゐないとおぼしめしていらつしやい。私<sup>わたし</sup>は表<sup>おもて</sup>に見<sup>み</sup>えてゐるやうな者<sup>もの</sup>ぢやありません。  
 姫 わたしはあなたがわたしの思<sup>おも</sup>ふやうであつたらと思<sup>おも</sup>ひますの。  
 ワイ お姫<sup>ひめ</sup>さま。すると、今<sup>いま</sup>の身<sup>み</sup>の上<sup>うへ</sup>よりもよくなるのでせうか? 私<sup>わたし</sup>さう成<sup>な</sup>り  
 たうございます、今<sup>いま</sup>はあなたの阿呆<sup>あほう</sup>役<sup>やく</sup>を勤<sup>つと</sup>めてゐますのですから。  
 (傍白) お、あの人が言<sup>い</sup>ふのだと、どんなに嘲弄<sup>てうりやう</sup>されても、蔑<sup>あは</sup>まれても、怒<sup>おこ</sup>ら



アンド (トビーに)でも、君の姪さんは、あの公爵の家來に對して、我輩に對して爲る以上の優待をしてをる。それを我輩は見た。現に此庭内で見た。

トビー その時、姪はお前の居るのを見附けたかい？

アンド うん、たしかに見附けとつた。

フアビ ぢやア、それア、お姫さんが貴下に惚れておいでなさる立派な證據でさ。

アンド (さすがに怒つて)うぬれ、人を馬鹿にするか？

フアビ どういたしまして、智慧と分別とに誓言をさせて、全くだといふ證明をいたしませう。

トビー (笑つて)其兩君はノアが船長であつた時分からの陪審官さんだ。

フアビ ねえ、お姫さまがあなたの目の前で、あの若い男にちやほやなすつたのは、あなたを焦立たせよう爲ばかりでさ、あなたの眠つてゐる勇氣を呼び覺まし、あなたの心臓に火を附け、あなたの肝臓に硫黄を燃させうといふ爲ばかりでさ。

かりでさ。其時あなたがつかくと傍へいらしつて、造幣所から鑄出だしはやくといふ旨い洒落を叩き附けて、あの若い男をぐわんといはせなさるべきでした。それを待ち設けてをられたのが、ぐれはまになつたんだ。此好機會の二重金線をむざ／＼洗ひ落しなすつたもんだから、あなたの御信用の舳が、つい、その、和蘭人の髭に垂氷の垂る北の海へと向くやうにもなつたのでさ。それを取返しなさらうてのには、すばらしい勇氣か、策略か、どちらかをお見せなさらなけりやいけませんや。

アンド 何かせにやならんなら、勇氣より外に仕方がない。我輩策略は嫌ひぢや。策略家になるくらゐなら、清教徒になつたほうが好い。

トビー それぢや、勇氣を資本に身代をこしらへるさ。あの公爵の若黨めに決闘を申し込んで、十一ヶ所も手を負はせるがいう。さうすりや姪がきつと感心する。そこで、以て、女の氣を取るには、勇者だといふ評判を得るのが一等

だと悟るがい。

フアビ

アンドリュースさん、それより外に仕方はありませんよ。

アンド

あの男への挑戦状を誰れか持つてつてくれるかね、君らの中で？

トビー

さ、武張つた字で書きたまへ。短く鋭くね。洒落は交つてもかまはん、が、

雄辯に、さうして斬新にね。インキの許す限り嘲弄するんだ。さんく

汝扱ひにすりや可いんだ。うそを吐け！て文句を紙一ぱいに書き並

べるんだ、其紙の大きさが英吉利の例のウエーヤ市の旅館の寢臺よろしく

であつたつてかまはん。さ、早く。思ふさまインキに苦味を混るんだぜ。

それを書く筆は鴛鴦の羽根であらうともだ。さ、早く。

アンド

どこで會ふことにするかね？

トビー

例の坐 鋪で會はうよ。さ。

アンドリュース入る。

フアビ

トビーさん、あの方はあなたの爲には、大切の玩弄物さんですなえ。

トビー

大切も大切、二千兩以上の値打物さ。

フアビ

きつと面白い挑戦状が出来ませうぜ。けれどもまさか貴下持つちやア往

きなさりやしますまい。

トビー

いなくなつてよ、大丈夫だ。どうかしてあの二才めに必ず承諾させるやう

にしよう。だが、牛車の方でもあの二人をぶつつからせることは出来さう

にないなア。アンドリュースめは、解剖して見るがい、肝の臓に蚤の脚を留

めるだけの血だつてありやアすまい。萬一あつたら、其解剖残りをおれが

食はうツてくらゐのもんだ。

フアビ

ところで、相手の若僧とても、どう酷く残酷さうな顔附もしてゐませんか

らね。

マリヤ出る。

トビー あゝ、あそこへ鶴鷄の九疋子の末ッ子が来た。

マリヤ (笑ひながら) 笑つてくお肚が痛くなりたけりや、すぐ従いていらつしやい。あの間拔けのマルヅリオが邪宗信者に、背教者になつたんですよ。だつて、基督信者中にやあんな無法な汚ららしいことをする者があらう筈はありませぬもの。黄色い長靴下を穿いてますの。

トビー さうして十字形の靴下縮かい?

マリヤ えゝ。その様ツたら無いの。まるで寺子屋の先生のやうよ。わたし附廻つてみましたの、奴を殺さうとして覗つてる人のやうに。奴は、わたしがあの艶書に、たくらんで書いておいた通りに、してゐますの。にやく笑つて、顔を印度領を畫き足した新地圖のやうに筋だらけにしてゐるのよ。珍妙不思議なの。何か打附けてやりたくてしやうがない。お姫さまは、きつと彼奴をお撲ちなさるでせうよ。けども彼奴撲たれても尙にやく

トビー 笑つて、可愛がられてゐるのだと思ふでせう。(と笑ふ)

トビー さ、さ、案内してくれ、奴のゐるところへ。  
みなく入る。

第三場 街 上

セバスチャンとアントニオと出る。

セバス わたしから望んで、こんなにお世話を掛けたくないのですが、苦勞をするのが愉快だとおつしやるのだから、もう何も、かれこれはいひませぬ。  
アント あなたに別れて後に留つてをることは出来ないのです。一しよにゐたいと思ふ願望が、磨き立ての鋼鐵の拍車のやうにわたしを駆り立てたのです。

なつかしいと思ふ情だけでも、わたしは此れ以上の長い船旅をしたでせうが、あなたが此地方に不案内だから、何事か起りやしないかといふ不安の念もあつて、尾いて來ました。案内者も友人もない外國人だと見ると、とかく粗暴な、不深切な待遇をするものですからね。さういふ心配があつたところから、あなたを思ふの餘り、追掛けて來たのです。

セバス  
アントニオさん、繰返し「お禮をいふより外はありません。それでも尙足りません。貴い、立派な仕向けを如是な銚錢同様の駄文句で仕拂ひ濟みにして恬然である例が世間には屢々あります！ けれども若しわたしに此感謝の眞情ほどに確實な資力がありませんでしたなら、もうちつと優なお扱ひをしましたでせうに……で、何をしませう？ 此市の古跡でも見廻りませうか？

アント  
それは明日にしませう。先づ宿所を定めたはうがよろしい。

セバス  
わたしは草臥れてはゐませんし、まだ夜までは間があります。ねえ、此市

の名譽の記念物や有名な物を見て目を娛ませませうよ。

アント  
どうか堪忍して下さい。わたしはうっかり此街中は歩けないのです。嘗て海戦があつた時、わたしは此處の公爵の敵方に屬してゐたのです。それはよく知れ渡つてゐた事だから、萬一捉つたりといふと、恐らく言ひ抜けは出來まいから。

セバス  
多分、此國の者を大勢お殺しなすつたんでせうね。

アント  
さういふ残酷な性質の罪を犯したわけぢやアないのです、其時の行き懸りからいふと、随分残酷な事にも成行きかねなかつたのですが。其際、敵方から取つた物を償還することにさへすれば、悉く解決が附いたのでした、で、貿易上の都合で、わたしの市の多數者はその案を取つた、わたしだけが反對した。だから、若し此處で捕まれば、酷い目に逢ふでせう。

セバス では、あんまり公然にお出掛けなさらないがい。

アント さやう、出歩けないのです。……(といひながら財布を出して)ねえ、此財布をお取りなさい。南の外郭の大象館が泊るには一等好いでせう。食事の準備はさせときませうから、其間の退屈まぎらしに、市内を見物して知識をお養ひなさい。あそこに待つてゐますよ。

セバス なぜ、あなたの此財布を、わたしが?

アント どんなことか買ひたいと思ひなさる一寸した物があるまいものでもない。

セバス あなたの貯へでは詰らん物を買ふべきぢやあるまと思ふからです。

アント では、此財布をおあづかりして、一時間ほどお別れしませう。

セバス 覚えてゐます。

アント 覚えてゐます。

左右へ別れて入る。

第四場 オリギヤ姫の庭園

オリギヤとマリヤ出る。

姫

(獨白) 彼人(シーザリオ)を呼びにやつたが、若し來るといつたら、どういふ風にしようか知ら。何を遣らうか知ら。若いうちは、哀願や約束でよりも物を貰つた嬉しさに心の動くことが多いのだから。……つい、大きな聲でいつたわ。……(マリヤに) マルザリオは何處にゐます? あれはいつもむづかしい顔をして、しかつめらしくしてゐるから、喪中のわたしにはふさはしい家來振なのよ。どこにゐますマルザリオは?

マリヤ

只今参ります。が、變な風をしてをりますよ。きつと魔が憑いたのでご



ごいませうよ。

姫 え、どうしたの？ 大きな聲でも出すかい？

マリヤ いゝえ、只にやゝ笑ふんでございますの。お姫さま、御用心遊ばすがよろしうございます、参りましたら。きつと氣が狂つたのでございますから。

姫 こゝへ呼んどいで。(マリヤ入る)。わたしも氣が狂つてゐるのだけ、鬱ぐのと浮かれるのと、氣ちがひに二種あるなら。

マルマリヤをつれてマリヤ又出る。

どうしました、マルドリオリ？

マル (妙に氣取つて、様子をしてお姫さま。ほ、ほ、ほ、ほ！(と小聲に笑ふ)。

姫 ま、お前、笑ふの？ 悲しい事があるから、呼びにやつたのだよ。

マル 悲しいこと！ 随分かなしい顔附も出来きます。かう十字形に緋附けます



姫 ま、どうしたの？ どうかし

たのかい？

と、大分血の巡環がわるくなりますのですが、何、かまひません。お目をお慰め申しますやうなら、小唄にもございます通り「其一人樂めば、人皆樂む」でございます。

マル 此心が黒いのではございま

せん、此脚は斯様に黄色うございませうけれど。首尾よく當人の手に入りました。で、

お吩咐通り實行いたしをります。あの綺麗な羅馬流の書風は皆が知つてをりますから。

姫 (つくづく) 氣の毒さうにながめて) マルヅリオ、もう寢間へ往つてお休み。

マル (狂喜して) え、お寢間へ! はい、いとしいお方さま、参りまするく。

姫 ま、氣の毒な。...なぜお前、さうにやくくして、自分の手をそんな風にキッスするのだいッ。

マルヅリオは委細かまはず當時の風流紳士の眞似をして自分で自分の指を嘗めてゐる。

マリヤ どうなすつたの、マルヅリオさん?

マル (傲然とマリヤを見返つて) 足下のおたづね? さやう、妙音鳥も随分燕鳥に返辭をすることがあるて。

マリヤ なぜあなたは、お姫さまの前で、そんな馬鹿らしい不作法を平氣でなさる

の?

マル 「偉大を怖るゝこと勿れ」。うまく書いてあつたつけ。

姫 そりや何のことだい、マルヅリオ?

マル 「或者は生れながらにして偉大なり」。

姫 おや!

マル 「或者は努めてやがて偉大を得」。

姫 何をいつてるの?

マル 「或者は偶々偉大を投げ與へらる」。

姫 天よ、あれを正氣にして下さいまし!

マル 「黄色の長靴下を稱讚せし人を忘るゝ勿れ」。

姫 黄色の長靴下を!

マル 「十字形の靴下締を結ばんことを望みし人を」。

姫 十字形の靴下締を！

マル 「いざや、卿に其心あらば、立身は目前なり。……」

姫 え、わたしに其心がだつて？

マル 「其心なくば、いつまでも召使と見做さん。……」

姫 ま、こりや全くの土用狂人なのよ。

家僕一人出る。

僕 お姫さま、オ、シノー公さまのお使ひの若い方が戻つて見えました。やう

やうの事で、頼んでつれて参りました。御都合を待つてをられます。

姫 すぐ會ひます。(家僕入る)。マリヤや、此仁に氣を付けておくれ。トビー

どのは何處にゐます？ 内の者どもにいひつけて、あの仁を特別に注意さ

せとくれ。わたし財産の半分をなくしても、あの仁の身に間違ひのないや

うにしたいから。

姫とマリヤと入る。

マル お、ほう！ やつと解りましたかね？ 現在の叔父御のトビーさんに予

の接待をお命じなさる！ 全く文面通りだ。わざくあの人を呼びに

おやんなすつたのは、おれに横柄に口をきかせるためだ。書の中にさうい

ふ吩咐があつたて。「古皮を脱ぎすて、親戚らには反抗し、家僕らには

むづかしい顔を見せよ、常に理窟ツばく横柄なれ、凡人とは全く異りたる

様子をすべし」とあつた。それからどういふ風にといふ指圖があつた。

例へば、むづかしい顔、勿體ぶつた立振舞、ゆつたりした物言ひ、如何にも

何處かの紳士らしく、云々。全く此方の物になツちまつたんだ。が、こり

や神様のお庇だ。ありがたいことだ！ 今も彼方へ行きなさるとして「此仁

に氣を付けておくれ。」此仁！ 「マルヲリオ」でもなく、又執事相應に「此

男」でもなく、「此仁」！ いや、何もかも、しつくりと一致する。もう寸分の

疑惑もない、もう分厘の故障も、聊かの不安も、鬼の毛ほどの疑ひも、露程の……何といつたらよからう？ どうしたつて、かうしたつて、もう此上は大丈夫だ。こりや全く神様のなされたことだ、おれの方ぢやない。ありがたいことだ。

マリヤを先きに立て、トビーとファビヤンと出る。

トビー え、どつちにある、その汚らばしい奴は？ 地獄ぢうの悪魔が、根こそげやつて来て、とツついてゐるからつて、かまふもんか、おれが問答に及んでくれる。

ファビ あそこにもまさ、あそこに……（マルザリオに）どうしたんですね？ え、どうなすつたんです？

マル （横柄に）退りをらう。控へろ。予は只一人で居たいのぢや。退れ！

マリヤ （トビー）らにほらね、あの聲はどうしたつて、憑いてる悪魔の聲でせう！ だ

から、申したでしよ、トビーさま、お姫さまがあなたにあの仁を監督して下さるやうにとおつしやつたつて。

マル あはア！ ですか！

トビー （わざとマリヤを制して）これ〜。しづかに〜。手柔かにしなくちやいかん。おれに任せときな。……マルザリオ君、どうしました？ どんな心持だね？ おい、これ！ 悪魔なんかに負けちやいかんよ。よしか、奴は人間の敵だよ。

マル （むつかしい顔をして嚴格に）心得ていふのですか、それは？

マリヤ ほら、御覽なさい、悪魔の事をわるくおつしやると、あんなに怫然になりませう？ 魅せられないやうに御用心なさいね！

ファビ あの仁の小水を例の巫女のとこへ持つてつて見るがい。

マリヤ あすの朝是非持つてきませう。お姫さまは、どうしてもあの人を失くしち

やならないッていらつしやるんだかい。

マル (マリヤに妙に、氣取つた聲で) どうです、御令嬢!

マリヤ おッやく〜! (と大きな聲をする)。

トビー (マリヤを制して) おい、しづかにおしよ。そんなに騒いぢやいかんよ。見な、とうぐ昂奮させツちまつたよ。おれに任しときなよ。

フアビ 手柔かに限りますよ。やんわ



トビー 悪魔は自分が手荒いのだから、手荒くされるのは好きませんや。

マル (呆れて) え?!

トビー ね、坊ちゃん、おいらと一しよに遊ぼう。おい〜! 悪魔と穴一をやつたりなんかするのは紳士らしくないよ。石炭掘なんかは七里けつばい

七里けつばい!

マリヤ トビーさま、あの人にお祈りをおさせなさいませよ、お祈りを。

マル (腹を立て、半傍自的に) お祈りをしろッて、あまつちよめが!

マリヤ (トビーに) 逆も神聖なことなんか耳に入るもんですか!

マル (いよく怒つて) やい、お前たち悉皆首をくつて死んじまへ。ろくでなしの懶惰者共めが! おれはお前らの仲間ではないぞ。今に分る。

マル (トビーに) マルブリオオ 傲然として入る。

トビー　こりやア意外だ！

フアビ　これが舞臺で演ぜられたのでありや、てんでうそらしい拵へ物だと貶し附けてしまふのですけれど。

トビー　奴め、すつかり此方の趣向に感染れツちまやアがつた。

マリヤ　ねえ、おつかけて行きませうよ、趣向がばれるといけないから。

フアビ　ほんとに氣が狂ふかも知れませんぜ。

マリヤ　さうすりやお邸内が静かになりませうよ。

トビー　さ、奴を暗室へ容れて、ふん縛ツとかう。姪はもう既に氣が狂つたものと信じてるから、さういふ風にしよう、此方の慰みのため、又奴の懲らしめのために、さんぐツばら玩弄にして、壓きが来て、もう可哀さうだとなるまで。さうなつたら、此狂言の種を告發して、へい、狂人の發見者は此女でございと上申しよう。…おや！　ちよいとく。

と一方を指さす。

アンドリュエー　一通の書面を手にとって出る。

フアビ　(トビーに) 又一つ五月祭の材料が出来ましたね。

アンド　(書面をトビーらに示して) これが挑戦状ぢや。読んで見てくれたまへ。胡椒や酸を十分にきかせといた。

フアビ　そんなに辛酸ツぱいのですかい？

アンド　うん。奴に取つてはぢや。読んで見てくれたまへ。

トビー　どれ。(と受取りて讀む)。

「青年よ、足下は如何なる人間なるか知らず、然れども卑小なる野郎なり」

フアビ　(笑ひをこらへて) うまい。強さうですねえ。

トビー　(讀む)。

「惟む勿れ、又駭く勿れ、何故に然足下を呼ぶかを。予は其理由を明言せざるべければなり。」……

フアビ

うまい断りです、さう書いときや法律に觸れる氣遣ひはありませんや。

トビー

(讀む)。

「足下はオリギヤの處へ來れり、而して姫は予の面前に於て足下を優待せり。然りと雖も足下は大々的虚言者なり。是れ予が決闘を望む所以なり。」……

フアビ

簡にして要を得てゐ……(といひかけて、口の中で)ない。

トビー

(讀む)。

「予は足下の歸途を要せんとす。其處にて若し幸ひにして足下を殺さん乎」……

フアビ

いゝね。

トビー

(讀む)。

「足下は不頼漢らしく又惡黨らしく予を殺すといふ者なり。」……

フアビ

やつぱり法律除けの用心がしてありますね。

トビー

(讀む)。

「さらばなり。神よ、われノ、二人のいづれかの靈魂に恵みを垂れたまへ！ 神は予の靈魂にこそ恵みを垂れたまはんかなれども、或は予が勝つべければ、足下自らの上を注意せよ。

待遇によつては足下の親友たれども、不俱戴天の仇敵たる  
アンドリユー・エーグ・チーク。」

此挑戦狀で動かないやうぢや、奴の脚だけぢや逆も動くまい。おれが之を渡して來よう。

マリヤ

今がちやうど好い機でせうよ。何やらお姫さまと御談判をしてゐて、もう

ぢきお暇しませうから。

トビー さ、アンドリュウ君。庭の隅で、奴の往くのを、捕方よろしくといふ風に、見張つてゐたまへ。さうして出會すや否や引っこ抜くんだ。抜くや否や嗚るんだ。實際決闘したよりも、只もうおそろしく嗚鳴り附けたので以て勇名を博した例が幾らもあるんだからね。……さ、早く！

アンド

大丈夫、嗚鳴つて見せるよ。

アンドリュウ入る。

トビー

(ファビヤンらに) ところで、此手紙は持つちや行かん。何故ならば、あの若い侍の様子を見るのに、教育もあり、怜愍でもあるらしい。奴の主人が姪の處への使ひをさせるので以てもそれが解る。だからこんな無類飛切の物知らず丸出しの挑戦状ぢや奴を怖らすわけにやいかん、すぐに鈍物から来た手紙だと氣取るだらうから。で、おれは口上で決闘を申し込むことにす

るよ。エーグチーグの奴を、如何にも勇敢な評判の男らしくいはう、で以てあの青侍ひめを……きつと本當だと思ふだらうから……威嚇し附けてくれよう、奴を非常に怒つてゐる熟練な、慍悍な、激烈な男らしく思はせて。さうすりや双方とも慍え上つて、顔を合せたばかりでくたばつちまふだらう、蛇體鶏頭怪が衝突つたやうに。

オリギヤ 姫 ダイオラのシーザリオをつれて出る。

ファビ

あそこへお姫さまと御一つしよにあの男が來ます。お暇乞ひをするまでうツちやつといて、それから追ッかけなさい。

トビー

それまでの間に決闘申し込みの、何かおツそろしい口上を考へてくれよう。

トビー、ファビヤン、マリヤ入る。

姫 (ダイオラに、怨めしきうに) 石のやうに無情い心の人に、つい身の面目を忘れて



うつかりと言ひ過ぎました。自分ながらあさましいと叱つてゐる。けれども幾ら叱つてもく、そのあさましい心のはうが剛情で、力強く、どうにもしやうがない。

私の主人のせつない心持が全くその、あなたのおせつない心持と同じでございませす。

（寶石を一箇取出して）ねえ、この寶石を、わたしの爲に、身に附けて下さい。わたしの畫像です。…辭退なさるな。これは口をきかないから、あなたを困らせはしないわ。さうして明日また来て下さい。あなたが欲しいとおひひの物で、わたしが否といふ物があるでせうか？ 面目さへ損はれなければ、どんな物でも與げる氣でゐますもの。

何にも欲しいものはありません、主人を愛していたくことより外には。どうしてそれがわたしの面目を損はずに出来ます、わたしはあなたを愛す

ると言ツちまつたのだに？

ワイ わたくしのは取消していたゞいてかまひません。

また明日おいでなさい。さよなら。…（傍白）お前のやうな悪魔が誘ふのなら、わたしの靈魂は、随分地獄へでも従いて行くだらう。

オリギヤ 姫 入る。

トビーとフアビヤンと出る。

トビー （グイオラに）や、御機嫌よう！

ワイ あなたにも。

トビー （嚴格に）出来る限り防禦の準備をなさい。どういふ侮辱を君がお加へなすつたのか知らんが、君を此庭はづれでは待伏せしてゐる男があるんです。おそろしく憤激してゐます、獵師のやうな残忍な男です。早く其劍を抜いて、戦ふ準備をしておいでなさい、相手は猛烈な、機敏い、手練家ですから

ね。

グイ 何かのお間違へでせう。だれにも怨まれる筈はないのです。どんな人にも不快を與へたやうな覚えは少しもありません。

トビー ところが、たしかに其反對です。だから、命を大事だとお思ひなさるなら、防禦の準備をなさい。あなたの相手は血氣壯んな上に、強健ではある、手練はある、おまけに火のやうに怒つてゐるのですからね。

グイ 一體どういふ人なんです其人は？

トビー 動爵士です、刃なんか些も毀れてゐない細劍で叩かれて、絨緞的關係の下に叙爵された動爵士です。だが、喧嘩と來ちや、奴ア鬼でさ。もう三人も人を殺してます。殊に今は怖ろしく怒つて、相手を叩き斬つて墓へ打込まないぢやアおかんと猛り立つてゐるんです。やるか、とるか、やツつけるか、やツけられるかだと言つてます。

グイ 邸の中へもう一度歸つて、お姫さんの御家來にでも送つて貰ひませう。私には叩き合ひなんか出来ません。わざツと喧嘩をしかけて、人の勇氣を試す氣まぐれ者があると聞いたことがあります、お話の人はさういふ類ひの人でせう。

トビー いゝや、彼れが憤激に及んでゐるのには、正に當然の理由があるんです。だから、彼れの要求通りにお立合ひなさい。邸へ戻るなんてことはいけません、手前を相手にして、彼れに對すると同様の勝負をなさればともかくもだが。だから、すぐ出てゆくか、でなきや此處で其劍を引ツこ抜きなさい。どうしたつて係り合ひはまぬかれないのだ。でなきや、以來鋼鐵なんかぶらさげないやうにするがいゝ。

グイ これはまた、無法とも不思議ともいひやうがありません。一體其方にどういふ無禮を私 がしましたのかをお尋ね下さる御深切を一へにあなたにお

願ひします。故意にする筈はないんですから、ついつつかり何かしたんで  
ありませうから。  
トビー 承知しました。ファビヤン君、君は此方の傍にゐて下さい、おれが戻つて來  
るまで。

トビー入る。

ワイ (ファビヤンに) あなたは事情をごんじなんでしょうか?  
ファビ その武官さんが是非決闘するといつて怒つてゐるのは知つてますが、それ  
以上の事は知りません。

ワイ どんな風の人です。  
ファビ 顔を見たところや、どう偉く強さうにも見えませんがね 實際立合つたら  
驚きませうよ、迎も此イリ、ヤ中どこを探したつて又となほいほどの残酷な、  
おツそろしい決闘上手です。あつちへ往つて見ますか? わたしは出來



ワイ だけでもありがたうござい  
ます。わたしなんかは武  
士の相手になるよりも僧  
さんの相手になつたほう  
が當然です。(半分傍白的に)  
さういふのがわたしの本  
性だと氣取られたつてか  
まはない。  
二人とも入る。  
しばらくしてト

ビーとアンドリュウと出る。

トビー どうして、奴はまるで鬼だよ。あんな女夜叉は見たことがない。實は一試合やつて見たんだ、鞘ごとの劍でね。と、奴おッそろしい勢ひで以てお突いと来た。とツても受け切れないや。だからね、いざ突返す段となると、奴の切先きは地を踏む君の足の外れない程に慥かだらうぜ。ベルシャ王に仕へてゐた劍客ださうだ。

アンド (大きにおびえて) 弱つたなア！ ちや、係り合はないことにしよう。

トビー ところが、奴、もうどうしても承知しない。ファビヤンが今取抑へてゐるんだが、逆もおさへ切れない。

アンド 困つたなア！ そんなに強くつて、劍術が上手だと知つたら、奴を地獄へ墮してしまつときたかつた、決闘なんか言ひ込む前に。もうこりや水に流してくれたまへ。其代り、我輩奴にあの大切な灰色馬を與ることにするか

ら、あのキャビレットを。

トビー ま、談判して見よう。こゝに待つてゐたまへ、随分強さうな様子をしてね。靈魂のやりとりは無しで濟まうよ。…(行きかりけて、アンドリュウを尻目にかけ、傍白)はて、汝の馬にも乗ツかつてくれるぞ、汝に乗ツかつてやうに。…此途端にファビヤンが無理にワイオラを引立てるやうにして出る。

ファビ (小聲でファビヤンに) 此喧嘩を中止にするために奴の馬をせしめてくれた。あの若い男は鬼だといつて奴をおどかしたんだ。

トビー (同じく小聲で) あの男もまたアンドリュウさんを怖つてまさ。息をはづませ

て、眞蒼になつてます、荒熊にでも追ツかけられたやうに。  
(進み寄つてワイオラに) どうも仕方がないですよ。誓言をした以上は是非とも決闘をするといひます。實は、あの仁とても、再考の結果、其理由の多い

ふに足らんことを悟つたんですけれど、是非に及ばないのです。だから、彼れの誓言を無にさせないために、お抜きなさい。あなたに惟我はさせないといつてまよさ。

ワイ (さすがに覺悟をきはめて、口のうちに) 神さま、どうぞお守り下さい！ ちよつとすりや、男でないことが解ツちまふだらう。

ファビ (氣の毒になつて) 激しくかゝつて來たら、退るやうになさい。

此間に トビーはアンドリュウの傍へ往く。

トビー おい、アンドリュウ君、どうも仕様がなないよ。あの侍ひは、名譽上、君と一勝負するといふんだ。決闘條例の表として止むを得ないんだ。が、わたしに約束したには、紳士であり武士である以上、君に手疵を負はせるやうなことはしないよ。さ、さ、やつたりく。

アンド (半分口のうちに) どうか其約束を守つてくれるやうに！

此うちファビヤンに引立てられてグイオラが近づく。

グイ (アンドリュウに) 飽迄も望ましくないのですけれど。

双方ともに劍を抜く。

此途端アントニオ出る。男装のグイオラをセバスチャンと見違へ、急いで、將に闘はうとする二人の間へ割つて入る。

アンド (アンドリュウに) 劍をお收めない。若し此若い紳士が何か不都合をしたのですなら、その罪はわたしが引受けます。或はまたあなたが不都合をしたのなら、わたしが彼れに代つてあなたと立合ひます。

トビー (こらへかれて、立向つて) 君が！ 一體君は何だり！

アンド 彼れの爲になら、彼れがあなたに對して敢て爲ようと高言した以上の事を敢て爲ようとすする男です。

トビー 君が餘計な干渉をするなら、おれが相手になる。

だしぬけにトビーが拔劍するので、アントニオも同じく劍を抜く。あはや聞はうとする途端に、此市の警吏らが出る。それを目早く見附けて

フアビ お、トビーさま、お待ちなさいまし、お役人衆が來ました。

トビー (劍を控へてアントニオに) 今に相手にならう。

此時までダイオラもアンドリュも劍を提げて呆氣に取られて立つてゐたが、心附いて

グイ (アンドリュに) どうぞ其劍をお收めなすつて下さい。

アンド はい、をさめます。それからお約束したことはきつと守ります。彼

馬はおとなしい奴ぢやから、よいいふことをきゝます。

此うち警吏らがばら／＼と近附いて

一の吏 (アントニオを指さし) あの男だ。取りおさへなさい。

二の吏 (アントニオに) アントニオ、オ、シノー公爵の訴へによつて取抑へるぞ。

アント (とほけて) お人違ひでございませう。

一の吏 いゝや、決して。お手前の顔はよく存じてゐる、海軍帽を今は冠つてござらんけれど、引立てなさい。見知られてゐることは當人も知つてゐる筈です。

アント (親念して) 止むを得ない。… (ダイオラに) あなたを探しに出た爲にこんな事になつた。是非に及ばんから、命に應じます。かういふ窮迫の際だから、先刻獻げた財布を戻して貰ひたいのですが、どうでせう? あなたの爲に盡すことが出来なくなつたのを情けなく思ひます、身に災厄の降りかゝつたことよりも、…ひどく驚いておいでのやうだが、心配なさるな。

二の吏 (アントニオに) さ、さ、早く。

アント (再びダイオラに) ねえ、あの金のうちを、どうか幾らか返して下さい。

ワイ (呆れて) どういふお金ですか? …… 甚だ微力ではありますが、只今御深切を盡して下さいましたお禮に、二つには、目前お困りの御様子を見まして、お氣の毒に存じますから、聊かばかり御用立いたしませう。幾らも持つておませんです。こゝに有るのをお分け致します。 (所持金の一部を出して) さ、お取り下さい、これが貯への半分です。

アント (呆れて) この場合に否といふのですか? 相應に深切を盡した積りでしたが、それを思ひ出しても下さらないのですか? 不幸なわたしを誘惑なさるな。それな風になさると、つい、わたしの心が僻んで、あなたを恩知らずだなんぞと罵りたくなります。

ワイ (いよく呆れて) わたしにはどういふ記憶もない。またあなたの顔も聲も覚えておられません。わたしは忘恩といふことを虚言や高慢や駄辯や亂醉や其他われわれの脆い心を腐敗させるあらゆる悪徳以上に憎んでゐるのです。

アント (ますく、呆れて) どうも驚いた! 言語道断だ!

二の吏 (アントニオに) さ、さ、おいでなさい。

アント (吏員に) ほんの少し言はせて下さい。…こゝにゐる此若い男はもう殆ど半分が「死」の腮に吞まれてゐたのを、わたしが引つたくつて、命を助けた上、誠心誠意、深切を盡したのでした。いかにも上品な容貌ですから、必ず徳の高い男だらうと思つて、深く崇敬してゐたのでした。

一の吏 そんなことは此方の知つたことぢやない。時が経つ。さ、早く。

アント ところが、其御本尊は、今見ると、ま、何といふ汚はしい偶像だ! …… (ワイオラに) セバスタヤン、君は其上品な容貌を侮辱したのだぞ。自然物中の出来ぞこなひは人間の料簡ばかりだ。不自然な料簡以外には、醜いとか不様とかいはれるものはないのだ。美德は美其物だが、美の假面をかぶつた悪徳は、外飾りばかり見事な、悪魔が手製の空鞆だ。

一の吏 (二の吏に) 氣が狂ひかけたぞ。さ、おつれなさい！……(アントオに) さ、おいでなさい。

アント 案内して下さい。

アントニオ 吏員らに引立てられて入る。

ワイ (其後ろ影を見送りつゝ) あんなに激昂して言つて所を見ると、深く信じてゐるのらしい。わたしはさうまでは信じ得ない。おゝ、わにしの此想像が中つて、戀ひしい兄さん、お前さんとわたしが見ちがへられたのなら、どんなに嬉しからう。

先刻からの問答を冷眼で傍聴してゐたトビー、アンドリュウらを見返つて

トビー ナイト 士爵、こゝへ來たまへ。ファビヤン、こゝへござい。賢明な格言で奴をこつそり一つ二つ並べようよ。

と二人を引張つて一隅へ退く。

ワイ (尙獨自をつゞけて) わたしをセバスチャンと呼んでゐた。わたしは、鏡を見るたびに、まだ兄さんが生きてゐるのだと思ふほど、わたしは兄さんに似てゐる。兄さんは、かういふ仕立の、かういふ色の、かういふ飾りの服を被てお行きだつた、それを今わたしは真似てゐるのだ。おゝ、若し此想像が中るやうなら、暴風も深切だし、荒浪も情があるんだ。

思ひに洗みつゝ入る。

トビーが先きに立つて歩み出しながら

トビー (アンドリュウに) 卑劣千萬な陋な小僧だ。おまけに兎よりも臆病と來てゐる。奴の卑劣は親友の窮迫を見ながら救はうともしないのに見えてゐる。但し臆病の點はファビヤンに聴きたまへ。

ファビ 臆病ですとも、熱心な臆病、其點に於ては殆ど宗教的でさ。



アンド (大きに勢ひづいて) ぢや、これから追ッかけていつて、ぶんなぐつてくれう。

トビー それがいゝ、けれども劍は抜かんがいゝよ。

アンド やツつけなかつたら……(といひくゝ入る)。

フアビ さ、従いてつて様子を見ませうよ。

トビー どんな賭でもするよ、何をし得るものか。

二人とも入る。

\* \* \* \* \*

### 第四幕

第一場 オリギヤ姫の邸の前

セバスチャンと道化方(フェスト)と出る。

道化 ぢや、どうしてもあなたを呼びに来たんぢやないと思はせようしんですか、わツしに。

セバス 人をつけ！ 馬鹿なことをいふ人だ。もう相手にやならんよ。

道化 うまく白をお切りなさるよ！ (わざとらしく) 成程、お目にかゝつたことはあ





つて、此裾このすそに附つくのは御免ごめんだ。  
道化方たうけがた入いる。

トビー (尙セバスチャンを止めてゐて) これ  
さ、まア〜。

アンド (トビーに) いゝや、すてとい  
てくれたまへ、我輩わがはい別の方べつ  
法りよを講かうじるから、あいつを  
相手取あひてつて、毆打おうちの訴訟そしやうを起おこ  
すことにするから、此このイリ、ヤ  
に法律はふりがある以上いじやう。毆ぶつた  
のは我輩わがはいが先さきだけけれど、か  
まはん。

セバス (トビーに) お離はなしない。

トビー これさ〜、離はなさないよ。これさ、若い大將たいしやう、劍けんをおしまひなさいよ。あ  
んたは強いよ、喧嘩けんかツばやいよ。まアさ〜。

セバス 手てを離はなして下さいよ。え、どうするんです？  
のなら、お拔ぬきなさい。 尙敢なほあへてわたしを挑發てうはつなさる

トビー え、何なんだと？ よろしい。おや、仕方しかたがない、其剛情そのかうじよツ張はりの血ちを二三オンス  
取とつてくれる。

と二人闘ふたりたふふ。  
此このうちオリギヤ姫出ひめでる。

姫 トビー、お待ち。命いのちが大事たいじなら、お待ちなさい！

トビー (劍を控へて) おや、姫ひめさん！ (と憎にくげる)。

姫 (苦々くくしげに、トビーに) 又またしても然さうなの！ 禮儀れいぎも作法さふも知しらない野蠻やばんと一

しよに、山の中か洞穴にでも住んでゐるのが當然のあさましい人！ あつちへお退りなさい！……立腹しないで下さい、シーザリオさん……（トビーに）無作法者、お退りなさい……

トビー、アンドリユー、フアビヤン入る。

シーザリオさん、無禮な、無法な振舞を彼等が、理由なく、あなたに對してしましたのを、どうか腹を立たないで、靜かに、賢明に諒恕して下さい。どうぞ邸へ一しよに来て下さい、あの亂暴者が今までも度々無益な、不細工な惡戯を仕出來したお話をしますから、さうすれば今日の此不作法をも笑つて恕して下さいから。是非來て下さい。いやだとおつしやつちやいけないの。ほんとに憎らしいこと、あの男のお庇で、わたしの此胸が、まるで獵人に逢つた兎のやうに躍り上つたの。

此間セバスチャンは何が何やら分りかれて、呆れ果てゝゐたが

セバス

（傍白）こりやどうしたといふのだ？ 河はどつちへ流れてゐるんだ？ おれは氣が狂つたのか知らん？ 或は夢を見てるのか？ 空想よ、おれの感覺を物忘れ河へいつまでも浸しといてくれ。若しこれが夢なら、いつまでも眠てゐたい！

姫

ねえ、來て下さいいな……あゝ、いふ通りになつて貰ひたいはねえ！

セバス

参りませう。

姫

おゝ、口でおつしやるばかりでなくね！

姫先きにセバスチャンを促して入る。

第二場 オリギヤ姫の邸内

マリヤと道化方（フェスト）と出る。